

2020年度



アウトリーチプログラム 報告書



独立行政法人国立文化財機構
文化財活用センター
NATIONAL CENTER FOR THE PROMOTION OF CULTURAL PROPERTIES



東京国立博物館
TOKYO NATIONAL MUSEUM

目次

ぶんかつアウトリーチプログラムについて	1
プログラム構成	
プログラム①「自分だけの松林図屏風をつくってみよう！」	2
プログラム②「屏風体験！松林図屏風をプロデュース」	4
プログラム③「見て、感じて、楽しむ松林図屏風」	6
プログラム④「見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風」	8
プログラム⑤「絵で読む平家物語」	10
実施報告	
小平市立花小金井小学校	12
町田市立堺中学校	14
大田区立石川台中学校	16
世田谷区立奥沢中学校	18
青梅市立若草小学校	20
三重県立四日市高等学校	22
複製品とキットのみの貸し出し実績	
足立区立六月中学校	24
京都府立福知山高等学校・福知山高等学校附属中学校	24
新潟市歴史博物館	25
教員研修、他 実施報告	
青森県総合学校教育センター	26
荒川区立第三中学校	26
利用者からの声	
町田市立堺中学校	27
新潟市歴史博物館	27
青森県総合学校教育センター	27
ぶんかつアウトリーチプログラム概要	
ぶんかつアウトリーチプログラム概要	28
FAQ よくある質問	29
おわりに	29

文化財活用センターについて

文化財活用センター〈ぶんかつ〉は、東京、京都、奈良、九州の4つの国立博物館や東京、奈良の文化財研究所など7つの施設を設置する独立行政法人国立文化財機構に、2018年7月に開設された組織です。あらゆる地域で、子どもから大人まですべての人びとが、日本の文化財に親しみ、身近に感じて、豊かな体験と学びを得ることができるよう、文化財の活用に関する新たな方法や機会の創出を目指し、情報基盤の整備やコンテンツの開発を行なっています。

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 (東京国立博物館 東洋館5階) <https://cpcp.nich.go.jp/>
TEL:03-5834-2856 FAX:03-5834-2857

東京国立博物館について

東京国立博物館(トーハク)は明治5年(1872)に生まれた、日本でもっとも歴史のある博物館で、日本とアジアの伝統文化に触れることができます。日本とアジアの絵画、彫刻、工芸、考古遺物などを常時3000~4000件展示しています。収蔵品の数は11万9000件以上、国宝89件、重要文化財644件を含む質・量ともに日本一を誇る博物館です。

東京国立博物館教育普及室では、「スクールプログラム」として、小学校・中学校・高等学校のみなさんが学校の授業で博物館を見学するときに事前学習に使用できる動画の配信や、オンラインプログラムを実施しています。(問い合わせは休館日を除く平日10:00-17:00)

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 <https://www.tnm.jp/>
TEL:03-3822-1111(代) FAX:03-3822-3010(教育普及室)



ぶんかつアウトリーチプログラムについて

「ぶんかつアウトリーチプログラム」は、全国各地の博物館・美術館や小学校・中学校・高等学校の、いつもの教室やワークショップスペースなどで文化財に親んでもらうために、〈ぶんかつ〉とトーハクの教育普及室が共同で開発を行なっています。本プログラムは、主に児童・生徒を対象とし、博物館・美術館のワークショップや、学校の図画工作・美術・古文の授業はもちろん、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、図画工作・美術科の教員研修などでの活用を想定しています。高精細画像などのデジタル技術と伝統的な職人の手仕事によって制作された、肉眼では本物と見分けがつかぬほど精巧な複製品を使用し、国宝や重要文化財、海外の博物館が所蔵する名宝と向き合うことによって文化財に親しみ、自らに問いかけ、考える力を養うことを目的としています。本プログラムは、原則として無料でプログラムに必要な複製品を含むキット一式の貸出を行ない、ご希望に応じて、〈ぶんかつ〉およびトーハクから講師の派遣も行なっています。基本的な流れを理解いただいたうえで、利用者の目的に応じたアレンジも可能です。

本プログラムは2018年から開発をはじめ、2019年4月から3つのプログラムの提供を開始、2020年度はプログラムを5つに増やして実施しました。2020年度は、11の小学校、中学校、高等学校および教員研修やワークショップなどで実施・活用いただきました。2021年度はプログラムのブラッシュアップを加えて、年間15件程度の実施を目標としています。

本報告書には、各プログラムの概要とともに、2020年度に講師派遣を行なった機関における実施内容を掲載しています。文化財に親しむための活動を行なうみなさま、鑑賞の授業を担当する先生方の一助となれば幸いです。

文化財活用センター・東京国立博物館

コラム

2020年度のぶんかつアウトリーチプログラム

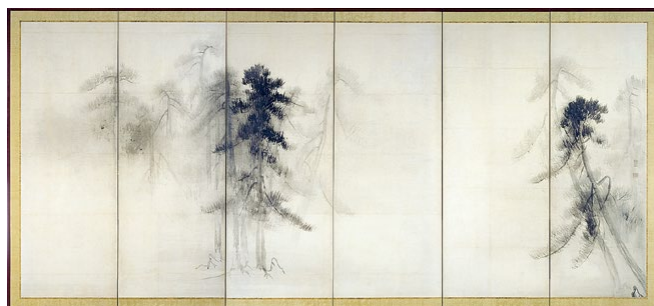
2020年度の事業はあらゆる業種・分野と同じく、新型コロナウイルス感染症による影響下ではじまりました。2020年度の受付開始は2月12日でしたが、2月下旬以降、東京国立博物館を含めたほとんどの博物館は休館措置を講じ、義務教育課程は公立・私立を問わず3月2日から全国で一斉休校となり、「直接、本物の文化財を見る、感じる、楽しむ、知る」機会は一時的に失われました。5月14日には日本博物館協会によって「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」が制定され(5月25日、9月18日改定)、博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防対策として実施すべき基本的事項が整理されました。リスク評価の結果、東京国立博物館では6月1日の再開館にあたり展示室内での人数制限(入館制限)、会話の制限を行なうとともに、特別展は中止または延期とし、各種教育プログラム(ギャラリートーク、ワークショップ、スクールプログラム等)やハンズオン、館内でのボランティア活動も中止となりました。また、文部科学省のガイドライン「新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言を踏まえた小学校、中学校及び高等学校等における新型コロナウイルス感染症への対応に関する留意事項について(通知)」では、感染リスクの高い教育活動のひとつとして、図画工作、美術、工芸における「児童生徒同士が近距離で活動する共同制作等の表現や鑑賞の活動」が挙げられ、一時的に停止することが求められました。

こうした状況をうけ、特に対話型鑑賞においては、近距離で発話を必要とすることもあり、2020年度は22件の実施を予定していたところ、11件の学校・機関で中止または延期としました。

プログラム
1

自分だけの松林図屏風をつくってみよう!

使用する複製品 はせがわとうはく 長谷川等伯筆 こくほう しょうりんずびょうぶ 国宝《松林図屏風》の高精細複製品★(東京国立博物館所蔵)



プログラムのねらい

トーハクが所蔵する国宝《松林図屏風》の複製品を使用した制作で表現するプログラムです。博物館ではガラスケース越しでないと鑑賞できない屏風ですが、自分と同じ高さの床に置いた屏風に近づいて見ることができます。色やかたち、配置に注目してじっくり見たあとは、屏風型のワークシートに松を描いたり、配置を工夫しながら松の木のスタンプを押したりと、自分だけの松林図屏風を自由につくります。ものづくりを通して文化財を身近に感じることを目的としています。

参加対象 小学校低学年以上

参加人数 最大人数40名(学校の場合は1クラスずつの実施を推奨)

実施時間 45～50分 ※60分や90分など時間を延長して実施することも可能。45分未満の短縮は不可。

学校で実施する場合の使用可能科目 図画工作、美術、総合的な学習の時間など

実施場所の条件など 実施場所は屋内に限る。屏風が設置できるスペース(横7メートル×奥行3メートル程度)があり、その周辺に参加者が使用できる作業スペースが人数分ある場所を推奨。

キット一覧	内 容	梱包の形態	梱包の数量
基本セット	屏風 6曲1双	185×95×20cm 程度のプラスチック段ボール箱	2個
	ござ 6畳×2枚	80×60×10cm 程度の袋	1包
	屏風用照明	65×44×48cm 程度のプラスチック段ボール箱	1個
	ミニチュア屏風(持ち帰り用)・アンケート	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
	ワークシート	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
	スタンプセット	37×53×35cm 程度の折りたたみコンテナ	3個
追加機材等 (投影機器等)	スクリーン	170×20×20cm 程度の段ボール箱	1個
	PC・プロジェクターなど	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個

※安全のため、屏風箱は必ず2人以上での持ち運びを推奨

※実施機関の機材等を使用できる場合、追加機材の送付なし。または、パネルで対応

参加者へのアンケート内容 ※利用者の希望に応じて内容を追加することも可能

- 気づいたことや面白いと思ったことは何ですか
- もっと知りたいと思ったことはありますか

コラム

ぶんかつアウトリーチプログラムの中で、一番申し込みが多いプログラムが、この「自分だけの松林図屏風をつくってみよう!」です。ワークシートは、松林図屏風に描かれている松と山の一部のみを残して背景だけが印刷されています。松のスタンプは作品の画像をもとにして制作した5種類があり、それらを自由に押しオリジナルの松林図屏風をつくる、というものです。松林図屏風の複製品の鑑賞を通じて、季節や時間、その周りに広がる風景、音や香りなどを想像し、それを画面に構成して形にしていきます。スタンプと黒いインクを使用して表現するため、制作活動や言葉で表現することが苦手な子どもでも取り組むことができます。筆ペンや色鉛筆などの画材を加えることで、より創作的なプログラムに発展させることも可能です。また、鑑賞の授業の評価では、鑑賞ワークシートに書かれた「ことば」で評価をすることがほとんどですが、制作や取り組みで評価ができるのがありがたい、という先生からの言葉も頂戴しています。

プログラムの内容(基本的な流れ)

1. ごあいさつから導入

時間配分	内容	詳細
5分	ごあいさつとテーマ	講師の自己紹介、ごあいさつ 「今日は「自分だけのびょうぶをつくらう!」というテーマで行います。」
	することの説明	プログラムの流れを説明します(話を聞く→じっくり見る→作る→まとめ)
	屏風を知る	〔屏風全体が見えるように座ったところからスタート〕 参加者に問いかけながら解説を行います。複製品であることもここできちんと伝えます。 「みなさんの目の前にある絵は日本で有名な作品のひとつです」 「みなさんに近くでよく見てもらえるように、本物そっくりに作られた複製品・レプリカを持ってきました」 「この絵の形は屏風といいます。みなさん屏風って知っていますか?見たことはありますか?」 「屏風は、昔の人がおうちでつかっていたもので、折り曲げて床に置き、ついたてや、パーティションのように、移動のできる壁として、部屋を仕切ったり、風よけや目かくしなどに使われました。」

2. 鑑賞

時間配分	内容	詳細
12分	描かれているものを見る	〔全体を見る〕 まずは遠くから全体を見てもらい、目に入ってきたものを聞いていきます。 「それでは、描かれているものを見ていきましょう」 「何が描かれていると思いますか?」 回答:木、山、など 〔屏風に近づく〕 屏風に近づいて、描かれているものを細かく見ます。 「何の木に見えましたか?」 回答:杉、松、モミの木、など 「実はこれは松の木です。みんな松の木は見たことあるかな?」 「そのほかには何か見えましたか?」 回答:空気、大気、霧など
	配置に注目する	〔実際の松林の写真を見せる〕 写生ではないことを感じてもらうための質問です。 「写真のような風景は見たことありますか?」 「写真の松林と比べて、同じところや違うところがありますか?」 回答:色が無い、松の本数が少ない、何も描かれてないところがある、など
	色に注目する	墨一色で描かれていることを伝えるための質問です。 「何色が使われていますか?」 回答:黒、灰色、白、茶色など 「墨の表現(太い線や細い線、筆の向きなど)はどうですか?」
	描かれている風景に入り込む	参加者が想像をはたらかせ屏風に描かれている風景に入り込めるような質問をします。 「季節はいつ頃だと思いますか?」 回答:春、夏、秋、冬など 「何時ごろの風景だと思いますか?」 回答:朝、夜明け、夕方、夜など 「どんな音が聞こえてきそうですか?」 回答:自分の足音、風の音など なぜそう思ったのか続けて質問し、参加者全員へ共有します。
2分	松林図屏風について知る	〔作業机の席に戻る〕 松林図屏風について簡単に解説します。

3. 制作

スタンプを使用した制作が基本。墨で描きたい、モノクロームではなく色をつけたいなど利用者の目的に応じたアレンジも可能。その場合に必要の画材は利用者で用意。

時間配分	内容	詳細
15分	作り方の説明	自分だけの松林図屏風をつくります。使用する画材の説明を行います。 「ここからは皆さんに屏風の作者になってもらいます」 制作中は参加者が作った作品を見てまわり、声掛けも行います。 ※時間内に制作が終わらない場合は、スタンプを数セット延長して貸し出すこともできます。(伝票をお持ちしますので、使用後は着払いにてご返送ください。)
2分	ワークシートを折って屏風をたてる	博物館から持ってきた屏風と同じ置き方になるように、折り方を解説します。



4. まとめ

時間配分	内容	詳細
5分	まとめ 終わりのごあいさつ	頑張ったところや工夫したところを聞き、プログラムのまとめをして終了です。

※利用者の目的に応じたアレンジが可能。

配布する持ち帰りキット

参加者ひとりにつき1セット配布。
講師派遣あり・なし、いずれの場合もお渡します。



プログラム
2

屏風体験！松林図屏風をプロデュース

使用する複製品 は せ が わ と う は く 長谷川等伯筆 こ く ほう し ょ う り ん ず び ょ う ぶ 国宝《松林図屏風》の高精細複製品★(東京国立博物館所蔵)



プログラムのねらい

トーハクが所蔵する国宝《松林図屏風》の複製を使用したグループワーク形式のプログラムです。はじめに屏風に近づいて鑑賞し、作品の特徴を見つけます。松林図屏風の世界をより身近に感じられる置き方や、魅力を引き出す置き方をグループで話し合い、提案してもらいます。屏風の見せ方を考える体験を通して、文化財に親しむことを目的としています。

参加対象 小学校4年生以上

参加人数 最大40名(学校の場合は1クラスずつの実施を推奨)

実施時間 90分 ※時間を延長して実施することも可能、ただし50分未満の短縮は不可。

学校で実施する場合の使用可能科目 図画工作、美術、総合的な学習の時間など

実施場所の条件など 実施場所は屋内に限る。屏風が設置できるスペース(横7メートル×奥行7メートル程度)があり、その周辺に参加者が使用できる作業スペースが人数分ある場所を推奨。部屋を暗くできる場合は、照明による演出も可能。

キット一覧	内 容	梱包の形態	梱包の数量
基本セット	屏風 6曲1双	185×95×20cm 程度のプラスチック段ボール箱	2個
	ござ 6畳×2枚	80×60×10cm 程度の袋	1包
	屏風用照明	65×44×48cm 程度のプラスチック段ボール箱	1個
	グループワーク用ミニ屏風	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
	グループワーク用ワークシート(図面)	63×20×20cm 程度の段ボール	1個
	ミニチュア屏風(持ち帰り用)・アンケート	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
追加機材等 (投影機器等)	スクリーン	170×20×20cm 程度の段ボール箱	1個
	PC・プロジェクターなど	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個

※安全のため、屏風箱は必ず2人以上での持ち運びを推奨

※実施機関の機材等を使用できる場合、追加機材の送付なし。または、パネルで対応

参加者へのアンケート内容 ※利用者の希望に応じて内容を追加することも可能

- 気づいたことや面白いと思ったことは何ですか
- もっと知りたいと思ったことはありますか

コラム

このプログラムは、トーハクで不定期に行っている「屏風体験！」というワークショップを、学校でも実施できるようにアレンジしたものです。「屏風体験！」は、日常の道具として暮らしの中で使われていた屏風本来の姿を体感してもらい、光の変化によって屏風の魅力を感じてもらおうプログラムです。2020年度のアウトリーチプログラムとしては教員研修での実施のみとなりました。鑑賞で気づいたことや感じたことなどをアウトプットする方法のひとつとして、「屏風の置き方を考える」という手法を取ったものです。しかし、2年間で1回しか申込みがなかったため、その原因と対策について考察、追求し、2022年度のプログラムを決定する際にアウトリーチプログラムとして継続するかどうか検討を行う予定です。

プログラムの内容(基本的な流れ)

1. ごあいさつ

時間配分	内容	詳細
5分	ごあいさつとテーマ	<p>〔屏風全体が見えるように座ったところからスタート〕</p> <p>講師の自己紹介、ごあいさつ 「今日は「屏風体験!松林図屏風をプロデュース」というテーマで行います。」</p>
	することの説明	プログラムの流れを説明します(話を聞く→じっくり見る→すごいところや特長を見つける→グループワーク→まとめ) 松林図屏風という作品名と、複製品であることをここできちんと伝えます。

2. 鑑賞

時間配分	内容	詳細
8分	屏風をひろげる	<p>講師が参加者の目の前で屏風をひろげていきます。</p> <p>ご希望に応じて屏風照明2種類と自然光(もしくは通常の蛍光灯)の合計3種類の光でお見せします。</p>
3分	屏風を知る	<p>「屏風は、昔の人がおうちでつかっていたもので、折り曲げて床に置き、ついでにや、パーティションのように、移動できる壁として、部屋を仕切ったり、風よけや目かくしなどに使われました。」</p> <p>「この松林図屏風は反対側にも折れるつくりで、ジグザグにしたり、四角く置いたり、さまざまな置き方ができます。」</p>
20分	描かれている松林について	<p>〔実際の松林の写真を見せる〕</p> <p>描かれている松林と写真の松林を座った位置で比較します。 写真ではないことを感じてもらうための質問です。 「写真のような風景は見たことがありますか?」</p>
	写真と比較しながら描かれているものを見る	<p>〔屏風に近づく〕</p> <p>「写真の松林と比べて、松林の同じところや違うところがありますか?」「松の本数は?」「地面と空の境目はどこだろう?」「色の違いは?」</p>
	描かれている風景に入り込む	<p>参加者が想像力を働かせ屏風に描かれている風景に、入り込めるような質問をします。 「どんな音が聞こえてきそうですか?」「天気や気温がどれくらいだと思いますか?」「季節はいつ頃だと思いますか?」「何時ごろの風景だと思いますか?」 なぜそう思ったのか続けて質問し、参加者全員へ共有します。</p>
2分	鑑賞のまとめ	<p>〔グループワークを行う位置へ移動して座る〕</p> <p>「何も描かれていない空間に何があるのかな、と想像して楽しむことができます」「墨の濃淡を使っているいろいろな色を表しているの、いろいろな時間や季節を想像しながら楽しむことができます」 など、参加者の意見をもとにまとめます。</p>

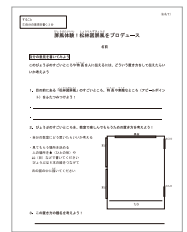
3. 個人ワーク、グループワーク

時間配分	内容	詳細
5分	課題説明	<p>グループワークの課題説明を行います。 「ここからは見てきたことを形にするグループワークです」</p> <p>松林図屏風のすごいところや特長を、初めて見る人に楽しんでもらうための置き方を考えてもらいます。</p> <p>ワークシート、図面、ミニ屏風の使い方、グループワークの進め方を説明します。</p> <p>※屏風の置き方を考える場所(教室など)は打ち合わせ時に相談して決定します。</p>
5分	自分の意見を書く	松林図屏風のすごいところや特長を自分で3つ考えて、ワークシートに書きます。
15分	みんなの意見をまとめて置き方を考える	各自で考えた特長をグループで共有し、みんなの意見として3つにまとめます。そのあと、松林図屏風の3つの特長をはじめて見る人に楽しんでもらうための置き方をグループで考え、その置き方にタイトルを付けます。

○使用するワークシート、図面、ミニ屏風



ミニ屏風



ワークシート

4. 発表～まとめ

時間配分	内容	詳細
10分	発表	グループで決めた置き方を発表します。
10分	複製の置き方を変えて実際に体験する	発表された置き方からひとつ選び、実際に複製をその形に置いて鑑賞します。または、左右の屏風を平行に向い合せて置いて、参加者に松林図屏風の間を歩いてもらいます。
5分	まとめ 終わりのごあいさつ	実際に置いてみた感想を聞いてまとめ、見せ方について解説をして終了します。

※最後のまとめ方はお申し込みの目的に応じて、アレンジが可能。

配布する持ち帰りキット

参加者ひとりにつき1セット配布。
講師派遣あり・なし、いずれの場合もお渡します。



ミニチュア屏風左



ミニチュア屏風右

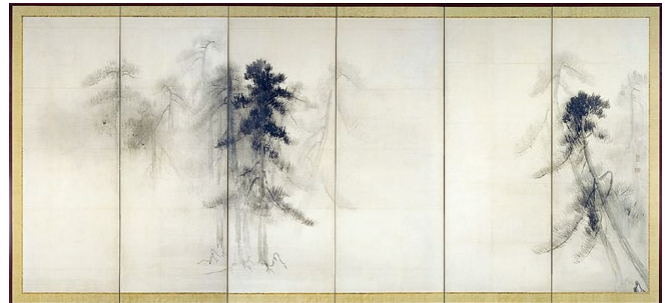


高精細複製品のパンフレット

プログラム
3

見て、感じて、楽しむ松林図屏風

使用する複製品 は せ がわとうはく 長谷川等伯筆 こくほう しょうりんずびょうぶ 国宝《松林図屏風》の高精細複製品★(東京国立博物館所蔵)



プログラムのねらい

トーハクが所蔵する国宝《松林図屏風》の複製を使用した対話形式のプログラムです。講師が屏風を取り扱い、ひろげて見せるところから始めます。照明による見え方の違いを感じた後、自分と同じ高さの床に置いた屏風に近づき、作品や描かれているものなどについて見て、感じて、楽しめます。じっくりと見て感じたことをお互いに言葉にすることを通じて、文化財に親しみ、多様な見方を受け入れることを目的としています。

参加対象 小学校3年生以上

参加人数 最大人数40名(学校の場合は1クラスずつの実施を推奨)

実施時間 45～50分

学校で実施する場合の使用可能科目 図画工作、美術、総合的な学習の時間など

実施場所の条件など 実施場所は屋内に限る。屏風が設置できるスペース(横7メートル×奥行3メートル程度)があり、その周辺に参加者が使用できる作業スペースが人数分ある場所を推奨。部屋を暗くできる場合は、照明による演出も可能。

キット一覧	内 容	梱包の形態	梱包の数量
基本セット	屏風 6曲1双	185×95×20cm 程度のプラスチック段ボール箱	2個
	ござ 6畳×2枚	80×60×10cm 程度の袋	1包
	屏風用照明	65×44×48cm 程度のプラスチック段ボール箱	1個
	ミニチュア屏風(持ち帰り用)・アンケート	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
追加機材等 (投影機器等)	スクリーン	170×20×20cm 程度の段ボール箱	1個
	PC・プロジェクターなど	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個

※安全のため、屏風箱は必ず2人以上での持ち運びを推奨

※実施機関の機材等を使用できる場合、追加機材の送付なし。または、パネルで対応

参加者へのアンケート内容 ※利用者の希望に応じて内容を追加することも可能

- 気づいたことや面白いと思ったことは何ですか
- もっと知りたいと思ったことはありますか

コラム

「見て、感じて、楽しむ松林図屏風」は2020年度から開始したプログラムのひとつです。小学校における図画工作の授業は、学校によって1時間と2時間の場合があります。初年度に「松林図屏風」をテーマに鑑賞と制作、またはグループワークを組み合わせたプログラム(プログラム①、②)を実施した結果、45分間を松林図屏風の鑑賞のみで構成することが可能と判断しました。そこで、1時間の授業にも対応出来る松林図屏風をじっくり見るプログラムを開発しました。


本プログラムはワークシートなどを一切使用せず、その場で参加者がじっくりと見て感じたことをお互いに言葉に出して共有していく方法論を用いますが、新型コロナウイルス感染症の状況下ではワークシートを導入せざるを得ない事もありました。その結果、目の前の屏風ではなく書くことに集中してしまったり、書くために時間を要することもあり、この状況下における対話型の鑑賞プログラムの在り方について検討を行っています。

プログラムの内容(基本的な流れ)

1. ごあいさつから導入

時間配分	内容	詳細
5分	ごあいさつとテーマ	講師の自己紹介、ごあいさつ 「今日は「見て、知って、楽しむ日本の美術」というテーマで行います。」
	することの説明	プログラムの工程を説明します(話を聞く→じっくり見る→まとめ)

2. 解説

時間配分	内容	詳細
8分	屏風をひろげる	<p>屏風全体が見えるように座ったところからスタート</p> <p>講師が参加者の目の前で屏風をひろげていきます。 ご希望に応じて屏風照明2種類と自然光(もしくは蛍光灯)の合計3種類の光でお見せします。</p> 
	屏風を知る	<p>参加者に問いかけながら解説を行います。複製品であることもここできちんと伝えます。 「みなさんの目の前にある絵は日本で有名な作品のひとつです」 「みなさんに近くでよく見てもらえるように、本物そっくりに作られた複製品・レプリカを持ってきました」 「この絵の形は屏風といいます。みなさん屏風って知っていますか?見たことはありますか?」 「屏風は、昔の人がおうちでつかっていたもので、折り曲げて床に置き、ついたり、パーテーションのように、移動のできる壁として、部屋を仕切ったり、風よけや目かくしなどに使われました。」</p>
5分	作品の第一印象を共有する	<p>作品から受けた印象を声に出してもらい皆で共有していきます 「第一印象は?見てどんな感じがしましたか?」 「何が書いてあるように見えますか?」 「この絵の中で、何が起こっているのでしょうか?」 「どんな音が聞こえてきそうですか?」 「どんな匂いがしそうですか?」</p>

3. 鑑賞

時間配分	内容	詳細
17分	描かれているものを見る	<p>全体を見る</p> <p>まずは遠くから全体を見てもらい、描かれているものや目に入ってきたものを聞いていきます。 「それでは、描かれているものを見ていきましょう」 「何が描かれていると思いますか?」 回答:木、山、など</p> <p>屏風に近づく</p> <p>屏風に近づいて、描かれているものを細かく見ます。 「何の木に見えましたか?」 回答:杉、松、モミの木、など 「実はこれは松の木です。みんな松の木は見たことあるかな?」 「そのほかには何か見えましたか?」 回答:空気、大気、霧など</p>
	配置に注目する	<p>実際の松林の写真を見せる</p> <p>写生ではないことを感じてもらうための質問です。 「写真のような風景は見たことありますか?」 「写真と比べて、松林の同じところや違うところはありますか?」 回答:色が無い、松の本数が少ない、何も描かれてないところがある、など</p>
	色に注目する	<p>墨一色で描かれていることを伝えるための質問です。 「何色が使われていますか?」回答:黒、灰色、白、茶色など 「墨の表現(太い線や細い線、筆の向きなど)はどうですか?」</p>
	描かれている風景に入り込む	<p>屏風に描かれている風景に、参加者自らが入り込める質問をします。 「季節はいつ頃だと思いますか?」 回答:春、夏、秋、冬など 「何時ごろの風景だと思いますか?」 回答:朝、夜明け、夕方、夜など 「どんな音が聞こえてきそうですか?」 回答:自分の足音、風の音など なぜそう思ったのか続けて質問し、参加者全員へ共有します。</p>
2分	松林図屏風について知る	<p>席に戻る</p> <p>松林図屏風について簡単に解説します。</p>

4. まとめ

時間配分	内容	詳細
5分	まとめ 終わりのごあいさつ	利用者の申し込みの目的に応じたプログラムのまとめをして終了です。

※利用者の希望に応じたアレンジが可能

配布する持ち帰りキット

参加者ひとりにつき1セット配布。
講師派遣あり・なし、いずれの場合もお渡しします。



ミニチュア屏風左



ミニチュア屏風右



高精細複製品の
パンフレット

プログラム
4

見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風

使用する複製品

おがたこうりん さかいほういつ じゅうようぶんかざい ふうじんらいじんず なつあきくさずびょうぶ
尾形光琳／酒井抱一筆 重要文化財《風神雷神図／夏秋草図屏風》
の高精細複製品(東京国立博物館所蔵)



表
裏



プログラムのねらい

トーハク所蔵の重要文化財《風神雷神図／夏秋草図屏風》の複製を使用した対話形式のプログラムです。風神雷神図／夏秋草図屏風の原本は保存のため裏と表を分けて保存していますが、高精細複製品は表裏を一体にして作品の元の姿を再現しています。プログラムは照明による見え方の違いを感じた後、自分と同じ高さの床に置いた屏風に近づき、作品や描かれているものなどについて見て、感じて、楽しめます。じっくりと見て感じたことをお互いに言葉にすることを通じて、文化財に親しみ、多様な見方を受け入れることを目的としています。

参加対象 小学校3年生以上

参加人数 最大人数40名(学校の場合は1クラスずつの実施を推奨)

実施時間 45～50分

学校で実施する場合の使用可能科目 図画工作、美術、総合的な学習の時間など

実施場所の条件など 実施場所は屋内に限る。屏風が設置できるスペース(横6メートル×奥行3メートル程度)があり、その周辺に参加者が使用できる作業スペースが人数分ある場所を推奨。部屋を暗くできる場合は、照明による演出も可能。

キット一覧	内 容	梱包の形態	梱包の数量
基本セット	屏風 2曲1双	180×150×20cm 程度のプラスチック段ボール箱	1個
	ござ 4畳×2枚	80×60×10cm 程度の袋	1包
	屏風用照明	65×44×48cm 程度のプラスチック段ボール箱	1個
	ミニチュア屏風(持ち帰り用)・アンケート	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
追加機材等 (投影機器等)	スクリーン	170×20×20cm 程度の段ボール箱	1個
	PC・プロジェクターなど	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個

※安全のため、屏風箱は必ず2人以上での持ち運びを推奨

※実施機関の機材等を使用できる場合、追加機材の送付なし。または、パネルで対応

参加者へのアンケート内容 ※利用者の希望に応じて内容を追加することも可能

- 気づいたことや面白いと思ったことは何ですか
- もっと知りたいと思ったことはありますか

コラム

「見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風」は2020年度から開始したプログラムのひとつです。開隆堂が発行している図画工作5・6の教科書に依屋宗達の風神雷神図屏風が掲載されており、主題として目にする機会が多い作品であることから開発しました。ただし、本プログラムで使用する複製は、尾形光琳による《風神雷神図屏風》です。

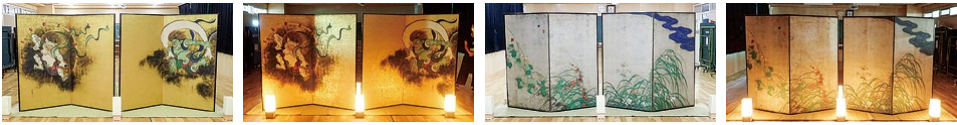
本作品の特徴は、光琳が風神雷神図屏風が描いた約100年後に夏秋草図屏風を酒井抱一が裏に描いたことです。そのため、2作品の鑑賞を行いつつ裏と表の関係性について理解してもらうための時間配分に苦慮しました。既存のプログラムと同様に、担当研究員がじっくり鑑賞し、絵の見どころ、鑑賞の視点、方法、子どもたちから何をどう引き出すかなどについて話し合うことから始め、45分間でまとめることができる方法を探りました。実際に実施した結果、教室の広さや作りによっても感じ方が異なることから、できれば屏風を動かすのではなく、参加者が移動することによって裏と表を見ることが出来るスペースでの実施が望ましいと考えています。

プログラムの内容(基本的な流れ)

1. ごあいさつから導入

時間配分	内容	詳細
4分	ごあいさつとテーマ	講師の自己紹介、ごあいさつ 「今日は「見て、知って、楽しむ日本の美術」というテーマで行います。」
	東京国立博物館とレプリカ(複製)について	東京国立博物館とレプリカ(複製)についてお話しします
	することの説明	プログラムの工程を説明します(話を聞く→じっくり見る→まとめ)

2. 解説

時間配分	内容	詳細
8分	照明演出	<p>〔屏風全体が見えるように座ったところからスタート〕</p> <p>屏風の色の変わり方を見る ご希望に応じて屏風照明2種類と自然光(もしくは蛍光灯)の合計3種類の光でお見せします。</p> 
	屏風を知る	<p>参加者に問いかけながら解説を行います。</p> <p>「この絵の形は屏風といます。みなさん屏風って知っていますか?見たことはありますか?」 「屏風は、昔の人がおうちでつかっていたもので、折り曲げて床に置き、ついたてや、パーティションのように、移動のできる壁として、部屋を仕切ったり、風よけや目かくしなどに使われました。」</p>

3. 風神雷神図屏風の鑑賞と解説

時間配分	内容	詳細
10分	作品の第一印象を共有する	<p>作品をいろいろな角度や場所からじっくり鑑賞し、風神雷神図屏風の表現について理解するために、作品から受けた印象を声に出してもらい皆で共有していきます。</p> <p>〔全体を見る〕</p> <p>まずは遠くから全体を見てもらい、描かれているものや目に入ってきたものを聞いていきます。</p> <p>「気になったところはありませんか?」 「第一印象は?見てどんな感じがしましたか?」 「何が書いてあるように見えますか?」 回答:天空を舞う神様、鬼など</p>
	描かれているものを見る	<p>〔屏風に近づく〕</p> <p>「何を持っているようにみえますか?」 回答:バチ、タオル、など 「ふたりの神様は何を思っているのでしょうか?」 回答:戦って、待ち合わせしている、など なぜそう思ったのか続けて質問し、参加者全員へ共有します。</p> <p>夏秋草図屏風につなげるための問いかけを行います。</p> <p>「どんな音が聞こえてきそうですか?」 回答:雷と風の音、など 「風はどのように吹いているように見えますか?」 回答:右から左、左から、など 「どんなお天気だと思いますか?」 回答:台風みたい、荒れている、など</p>
2分	解説	必要に応じて、講師が風神雷神図屏風の解説を行います

4. 夏秋草図屏風の鑑賞と解説

時間配分	内容	詳細
15分	作品から受けた印象を共有する	<p>〔後ろに回ってもらう〕</p> <p>裏の絵もいろいろな角度や場所からじっくり鑑賞し、風神雷神図屏風の表現について理解するために、作品から受けた印象を声に出してもらい皆で共有していきます。</p> <p>「このびょうぶには何が描かれていると思いますか?」 回答:草、花など 「音は聞こえると思いますか?」 回答:草がすれる音、何も音はしない、など 「天気や気温はどれくらいだと思いますか?」 回答:くもり、雨、など 「季節はいつごろだと思いますか?」 回答:秋、など 「何時くらいの風景だと思いますか?」 回答:暗いから夕方、朝、など なぜそう思ったのか続けて質問し、参加者全員へ共有します。</p>
2分	解説	講師が夏秋草図屏風の解説を行います

5. まとめ

時間配分	内容	詳細
5分	まとめ 終わりのごあいさつ	<p>表と裏を見て ・風の神さまの裏に、風に吹かれている秋草の様子 共通点:風 ・雷の神さまの裏に、雨に打たれた夏の草花の様子 共通点:雨</p> <p>反対の意味をもって描かれたもの ・金と銀 ・天空の神さまと地上のいつでも見ることができそうな風景 ・自由に動き回っていらぬ神様とつか枯れてしまう草花</p> <p>があることを含めて、利用者の申し込みに応じたプログラムのまとめをして終了です。</p>

※利用者の希望に応じたアレンジが可能

配布する持ち帰りキット

参加者ひとりにつき1セット配布(持ち帰り用ミニチュア屏風も裏表になっています)。講師派遣あり・なし、いずれの場合もお渡しします。



ミニチュア屏風 風神雷神図屏風



ミニチュア屏風 夏秋草図屏風

プログラム
5

絵で読む平家物語

使用する複製品 へい け ものがたり いち たに やしまかっせん ず びょうぶ 《平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風》の高精細複製品★(イギリス・大英博物館所蔵)



© The Trustees of the British Museum (2017).

プログラムのねらい

古典「平家物語」のさまざまなシーンが描かれた《平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風》(イギリス・大英博物館所蔵)の複製を使用するプログラムです。右隻には「敦盛の最期」など、「一の谷合戦」にまつわる21のエピソードが、左隻には「那須与一の扇的」など、「屋島合戦」にまつわる8のエピソードが描かれています。どちらも教科書でもなじみの深い場面です。原文や現代語訳を参考にしながら、描かれた場面や人物をじっくり見ることによって、自分たちの感性を通して古典を生き生きと学び、文化財に親しむことを目的としています。

参加対象 中学校2年生以上

参加人数 最大40名(学校の場合は1クラスずつの実施を推奨)

実施時間 45～50分 ※60分や90分など延長も可能、45分未満の短縮は不可。

学校で実施する場合の使用可能科目 国語、古文、古典、美術など

実施場所の条件など 実施場所は屋内に限る。屏風が設置できるスペース(横7メートル×奥行3メートル程度)があり、その周辺に参加者が使用できる作業スペースが人数分ある場所を推奨。部屋を暗くできる場合は、照明による演出も可能。

キット一覧	内容	梱包の形態	梱包の数量
基本セット	屏風 6曲1双	185×95×20cm 程度のプラスチック段ボール箱	2個
	ござ 6畳×2枚	80×60×10cm 程度の袋	1包
	屏風用照明	65×44×48cm 程度のプラスチック段ボール箱	1個
	ミニチュア屏風(持ち帰り用)・アンケート	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個
追加機材等 (投影機器等)	スクリーン	170×20×20cm 程度の段ボール箱	1個
	PC・プロジェクターなど	37×53×29cm 程度の折りたたみコンテナ	1個

※安全のため、屏風箱は必ず2人以上での持ち運びを推奨

※実施機関の機材等を使用できる場合、追加機材の送付なし。または、パネルで対応

参加者へのアンケート内容 ※利用者の希望に応じて内容を追加することも可能

- 気づいたことや面白いと思ったことは何ですか
- もっと知りたいと思ったことはありますか

コラム

《平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風》の複製品は、在外の日本美術の名品の高精細複製品を制作し、日本国内の美術館博物等に寄贈して活用をはかることを目的のひとつとする綴プロジェクト(キャノン株式会社と京都文化協会による文化事業)によって、2018年に独立行政法人国立文化財機構へ寄贈されたものです。本プログラムは、平家物語が授業で本格的に取り上げられる中学2年生以上を対象としています。美術の授業だけでなく2020年度は中学の国語の授業でも活用いただきました。本作品に限らず、平家物語を主題とする文化財に描かれている物語のエピソードは、現代の国語や古典の教科書に掲載されているエピソードと同じで、日本人の平家物語に対する感じ方が時を超えてなお、同じであることに驚かされました。


国語、美術、日本史など、教科横断型の特別授業などでも利用できることから、中学校・高等学校からお申し込みが多く、講師派遣なしでの実施例も多いプログラムです。

プログラムの内容(基本的な流れ)

1. ごあいさつ

時間配分	内容	詳細
5分	ごあいさつとテーマ	<p>〔屏風全体が見えるように座ったところからスタート〕</p> <p>講師の自己紹介、ごあいさつ 「今日は「絵で読む平家物語」というテーマで行います。」</p>
	流れの説明	あわせてプログラムの流れ(お申し込みの目的によって変わります)を説明します 複製品であることをここできちんと伝えます。

2. 鑑賞・解説

時間配分	内容	詳細
8分	屏風をひろげる	<p>講師が参加者の目の前で屏風をひろげていきます。 ご希望に応じて屏風照明2種類と自然光(もしくは蛍光灯)の合計3つの光でお見せします。</p> 
5分	作品から受けた第一印象を共有する	<p>作品から受けた印象を声に出してもらい皆で共有していきます 「第一印象は?見てどんな感じがしましたか?」 「何が書いてあるように見えますか?」 「この絵の中で、何が起こっていきそうですか?」 「どんな音が聞こえてきそうですか?」 「どんな匂いがしそうですか?」</p>

ここまでは利用者の目的にかかわらず、共通して行います。この後の解説は、目的や参加者の意見に応じて、参加者が鑑賞する時間を挟みながら内容を選択して行います。

25分	文化財の見方	屏風の基礎的な知識として、屏風の使い方、屏風の構造、絵の描かれ方についてお話しします。美術などの授業で活用される場合は、雲や大地の表現、海の色、肌の色、線の描き分けなどに注目しながら、日本画の表現や材料、必要に応じて複製ができるまで、などをお話しします。
	この作品について	モチーフの選び方、構図について、など「平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風」の作品についてお話しします。
	古典、物語について	右隻の一の谷合戦から「鶴越の坂落とし」「敦盛の最期」、左隻の屋島合戦から「那須与一の扇的」を取り上げ、文学と絵画の観点からお話しします。
	表現について	描かれた表現から、地形や距離、甲冑や刀、公家と武家の身分の違い、源平の違い、物語と史実の違いなどに着目して解説します。

3. まとめ

時間配分	内容	詳細
5分	まとめ 終わりのごあいさつ	気づいたことや新しい発見など、参加者の意見をまとめてプログラムを終了します。

※申し込みの目的と、参加者の意見や発言に応じて様々な観点から解説を実施。利用者ご自身によるアレンジも可能。

配布する持ち帰りキット

参加者ひとりにつき1セット配布。
講師派遣あり・なし、いずれの場合もお渡しします。



ミニチュア屏風左



ミニチュア屏風右



高精細複製品の
パンフレット

実施プログラム

プログラム
4

機関名 小平市立花小金井小学校 (東京都小平市花小金井1丁目35-1)

見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風



日時	2020年10月2日(金)(2時間目～4時間目)
参加対象・人数	小学校4年生 3クラス(人数:91名)
実施場所	多目的室(校舎3階)
講師	2・4時間目:小島有紀子、3時間目:高橋真作(文化財活用センター企画担当研究員)
輸送方法	日本通運(株)関東美術品支店 美術品専用車による輸送(搬入・搬出:学校対応、開梱・梱包:〈ぶんかつ〉職員)

利用者の目的・ねらい (図画工作:専任の先生より)

「日本の重要文化財に触れさせたい。また、日本文化の良さを認識させて、日本の伝統文化を受け継いでいきたい。」
「11月に展覧会があるのでこの体験から学んだこと感じたことから作品をつくりたい。」

実施までの流れ

4年生で日本美術の鑑賞を実施したいというご希望に合わせ、電話での打ち合わせの結果、プログラム④がお申し込みの目的に合うと判断し、風神雷神図/夏秋草図屏風での実施を提案しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、事前打ち合わせになかなか伺うことが出来ず、実施予定日の直前に学校で打ち合わせを行ないました。実施場所(多目的室)の確認とともに内容について先生の意見を伺った結果、「絵をじっくり見て、みんなでお話をする授業」として進めることにしました。実施場所の多目的室は、屏風を中央に置き、参加者が移動できるスペースを確保することが可能で、さらに暗幕もありました。打ち合わせ時の内容を落とし込んだ原稿をメールで確認いただき、4年生にわかりやすいことばなどに調整したうえで実施しました。複製品の搬入は前日、搬出は授業翌日に対応いただきました。

当日のプログラム内容

基本プログラムに沿って、児童にはひろげた屏風に行灯型の屏風照明をあてた多目的室に入ってきてもらい、何かを感じてもらうことから始めました。まずは光による変化を感じてもらうため、照明を変化させ、続けてカーテンをあけて自然光で見てもらいました。実施当日は快晴で、金屏風、銀屏風の見え方が時間によって異なり、カーテンを開けた瞬間に児童から大変な歓声が上がったため、プログラムは自然光のもと進めました。「風神雷神図」は身近なモチーフ(ゲームキャラクターなど)として知っていた児童もいたためたくさんの意見が上がり、風神雷神図屏風の予定時間をオーバーし、後半の夏秋草図屏風の鑑賞時間を短縮して調整しました。授業時間の合間にある5分休み、中休みの時間も多目的室にとどまる児童が多く、自身の中で様々な気づきが生まれている様子も見受けられました。(※参加者の密を回避するため、プログラム時間内は班ごとに分けて鑑賞の時間を設けました。)

事前・事後学習など

小平市立花小金井小学校の図画工作では、鑑賞の導入としてNHK Eテレの美術番組「びじゅチューン!」を授業で見ると工夫をされていました。今回は、初めて原寸大でふれる日本美術になるだろう、とのことで屏風や風神雷神図の事前知識がない状態での実施をお願いしました。

参加者へのアンケート回答紹介(一部抜粋※全て原文のママ)

◆風神雷神図屏風について

- 細かく書いてあったし、絵からいろいろなひょうげんがわかってすごくじょうずだなと思いました。
- びょうぶをみてわかったことは、絵のうしろが金なのがびっくりしました。あと、大むかしにこれがりようされていたことが、びっくりしました。(かべにかざる絵できな物なのかな〜と思ったらちがくてびっくり)
- ひるまの太陽のひかりで見るのと、よるの、ろうそくのひかり(火)でみるのではすこし色がちがっているようにみえた。
- ふうじんらいじんの絵がたたかっているように見えたからおもしろかった。
- 二人が向かいあって同じ方向にむかっているとうなふうにみえた
- とてもこわい顔をしていて、ふうじんは耳にピアスみたいなのをしていてらいじんはきばがあったり2人ともブレスレットみたいなのもしてあってつめがながかったです。それに小さかったしくらいとあんまりめだたないけどあかるいときんいろのところめだつ。
- 二人が何をできるのか1枚の絵にかかれていてすごいなと思った。明るいのと暗いので色がちがうように見えてふしぎだなと思った。
- 風神雷神図は見方によって様子がちがうようになったりしているのがすごいおもしろかったです。
- 風神雷神がふにやふにやだつたのでほねがないと思いましたが、あれは血かんと知ってびっくりしました。
- 風神は緑色をしていて、ふくろから風を出す。雷神は白い色をしていて、たいこをばちでたたいて雷を出す。裏の夏秋草図びょうぶより前につくられた。風神のもっているぬののようなものがふくろだということにおどろいた。風神雷神がのっているのが雲だと知り、雲に見えないなと思ひ、おもしろかった。
- 風神も雷神も歯をむきだしていて、歯を食いしばって対決しているようにも見えただけ、ヘンガオ対決してるみたいにも見えておもしろかった。
- 雷神の顔の形がふくざつでごつごつしていてあつうされた。ぼくは雷神が好きです。

◆夏秋草図屏風について

- 色々な植物がかかれていてすごい作品だと思った。水たまりがすごくじょうずにえがかれていた。
- 水たまりから雨がたつた。地上のようすがたつた。
- 雨つぶをかかないで雨の様子を伝えている所がすごかったです。葉が細いすじまでしっかりえがかれていてすごいと思いました。
- 秋の方はかぜが右からふいているようにみえる。
- 雲の下がどうなっているのかをお花や葉っぱがたおれている所でひょうげんしていました! すごく細かくすてきな作品だと思いました。
- おもてにかかれてるふうじんは風をおこすからそのうらに風がつよくなってる絵がかかれたりして工夫されてた。
- 表の風神雷神が上でたたかっているなら下はどうなっているのかがかいてあつてすごかったです。
- 表の絵と結びつかれていていいなと思った。花や葉がとてもステキにえがかれていていいなと思った。表とちがってうらはさびしいかんじがした。
- 夏と秋にわかれていておもしろいと思いました。おもての絵とうらの絵をかいている人がちがうことは、びっくりしました。
- 風で草花がぐったりとしていたので風神の力なんだと分かりました。草花の名前も教えてくれて草花の名前も分かりました。
- 表の風神のえとうらの秋の草のえを書いた人がちがう。風神と雷神は、天のようすで夏秋草図のほうは、地上で、天とかんけいしていておもしろかった。
- 夏秋草図びょうぶというだいい名もよかつたし、ものすごく、そのあかりからみても、昔のでんきでみても「きれいだな」と思いました。
- おもてを見て、うらの「夏秋草図びょうぶ」はぜんぜん予想がつかなかったの、いがいでした。
- 夏秋草図は、風神雷神が地上をあらしたような風景がえがかれていました。作者のさかいさんもおもしろい発想をしたなと感心しました。

◆こんなことがもっと知りたい

- どこでこのふしぎな神さまを思いついたのか。こんなびょうぶがあつて夜はこわくないのか。びょうぶは大きいけど神さまは小さい。
- 何年前にかかれたのに、そんなにきずついていないのはなぜ。
- 作者がどうゆう気持ちでかいたのか。何をモデルにしていたのかかふしぎに思いました。
- 絵の具であんなきれいな色がだせるのはどうしてなのか?
- 絵を書いた人は風神と雷神を見たのか?
- なぜ雨のつぶをかかないのか。
- なぜ春冬はないのか。
- なんできれいに書けるのか。夏秋草図をどうして思いついたのか?
- なぜ草花の「ふうけい」なのか。
- この日はくもりなのか?なぜ夏と秋でちがうの?なんじ?
- なぜ表、うらちがう人が会ってもないのに書いたのか知りたいです。
- なんで夏秋草図は銀色のびょうぶなのか知りたい。なんでほかの植物もあつたのにヒルガオとかユリにしたのか知りたい。
- 夏秋草図は、いつだれがどんなときに使うのか知りたいです。ふうじんらいじんずでは金色なのに、なぜ夏秋草図ではぎん色なのかなと思ひました。
- 風神と雷神がいる場所は同じようなところなのに、季節はちがうのかを知りたいです。

先生からのご意見・ご感想・参加者の反応など

5年生で扱う教材のため、4年生にできるかなと心配していたが、真剣に鑑賞する姿を見て、とてもうれしかったです。講師と児童が対話しながら、作品の理解を深め、周りの児童も、様々な意見を肯定的にとらえることができ、鑑賞は見る人によって感じ方、思うことが違っていいんだと自分自身も思えた。

講師より

今回は、2020年度から新たに導入した新プログラムを初めて実施しました。実は私自身が〈ぶんかつ〉に着任して間もなくで、アウトリーチの講師を担当するのも初めてだったのですが、元気いっぱいな4年生の皆さんにたくさんパワーをいただきました。灯具による照明の時間とても熱心にご覧いただいていたのですが、カーテンを開けて自然光が当たった時の「わあっ!」という大きな歓声にこちらでも感激してしまいました。講師が問いを発すると一斉に手が上がり、自由な意見をたくさん出していただきました。また屏風の裏側に違う絵が描かれていることがわかった時は、どんな絵なのか早く見たくてウズウズしている様子が伝わってきました。これをきっかけに、今後も絵画作品を見ることの楽しさや、文化財への親しみを持ってもらえたら嬉しいです。(高橋)

実施プログラム

プログラム
5

機関名 町田市立堺中学校 (東京都町田市相原町752)

絵で読む平家物語



日時	2020年10月7日(水)、8日(木)(合計5時間)
参加対象・人数	中学3年生 5クラス(人数:185名)
実施場所	多目的室(校舎1階)
講師	7日3・5時間目、8日:小島有紀子、7日4時間目:高橋真作(文化財活用センター企画担当研究員)
輸送方法	日本通運(株)関東美術品支店 美術品専用車による輸送(搬入・搬出:学校対応、開梱・梱包:〈ぶんかつ〉職員)

利用者の目的・ねらい 国語:専任の先生より

古文で平家物語を学習しました。教科書にも屏風絵図が掲載されており、興味をもって見ている様子うかがえました。是非、本物に近いものを、本来の屏風の形で生徒たちに触れさせたいと考えております。古文の豊かな世界に美術品から迫っていききたいと思います。
また、9月の京都・奈良への修学旅行で、文化財に触れる機会も多いと思います。生徒達には学習してきたことをつなげて、さらなる学びをしてもらいたいと思っています。

実施までの流れ

国語の授業で申し込みをいただきました。2020年2月の申し込み開始と同時に申し込みをいただき、3月下旬に事前打ち合わせを実施、4月上旬に実施の予定でしたが、打ち合わせ後に全国の一斉休校措置が取られることとなり、その結果、2度の延期の末10月に実施することができました。打ち合わせ時の内容に沿った原稿案をメールで3月下旬に先生にご確認いただきましたが、実施まで日が開いてしまったこともあり、当日の流れを含めて9月に再度メールで連絡調整を実施し当日に臨みました。複製品の搬入は授業前日、搬出は翌日に対応いただきました。

当日のプログラム内容

基本プログラムに沿って屏風を目の前で広げて、照明を変化させるところから開始しました。そのあとは基本プログラムのうち、古典の原文と描かれたものをリンクさせる方法で進めました。2年生で学んだ内容ということもあり、クラスや生徒によって覚えている内容や場面が様々であったため、学校で使用している国語の教科書を参照しながら進めました。特に、人物表現について明確に記憶されている生徒さんが多く見受けられ、人物が原文にどれだけ忠実に描かれているかをポイントとして、登場人物を追いながら全体のストーリーを見て読んでいきました。また、修学旅行も中止になったとのことで、屏風の歴史や他の形式の絵画(絵巻や掛け軸)についても話をしました。
(※参加者の密を回避するため、プログラム時間内は班ごとに分けて鑑賞の時間を設けました。)

事前・事後学習など

中学校2年生で平家物語の冒頭と「敦盛の最期」を学んでいましたが、休校措置の影響もあって復習する時間をとることが難しい、とのことで特別な事前学習などはなしで実施しました。ただ、メインの登場人物ではない人についても明確に覚えている生徒さんも多くいました。プログラムの事後には平家物語を復習して下さるとのことでした。

参加者へのアンケート回答紹介(一部抜粋※全て原文のママ)

◆屏風について

- 金ばくが雲や地面に使われている理由が、屏風の華やかさをより出すこと。海や火の色味、木の描き方など今とは違う描き方で難しそうに見えたが、この色きれいだな一だとか、まねしてみたいな一と思うことがあり、昔の技術を学んでみたいと思った。
- 義経が周りの武士たちの顔の色よりも白っぽく美しかったのは、当時義経がカッコ良いことや、義経を印象付けるということがわかった。また、雲や海の波など、その時の風景が描かれていてすごかった。
- 与一がおうぎに矢を当てるところがメインなのに、大きい屏風の中のほんの一部にしか描かれていなかったため、はじめはバツとしなかったが、メインの場所分かったことによって、絵の雄大さが分かり、そのようなところが面白いと思った。
- 近くで見ると、遠くで見ると、色々な発見があった。光の色を変えると、絵の印象が変わった。雲の色と地面の色を同じ色にすることで、ささやかな感じにみせることを知ってとても工夫されていると思った。
- 遠くから見るのと近くから見るのでは、全然違って人々の表情が1つ1つ伝わってきて、動いているように思った。血がたれてるのが本当に流れているに描かれていた。海が風に当たって動いているように白い線が描かれていて、きれいだった。
- 2つの屏風で1つの絵になるというアイデアとしても良いと思った。雲と地面が金色だと他のものは全体的に色が暗いので、明るい金が一層引き立てられて、さらに華やかに見える。あのアングルから見ると、もっと人は小さく見えるだろうけど、あえて大きくすることで、やく動感がとてもあると思った。1つ1つ書かれているものが細かくて、せん細だった。場面によって、人物の表情もそれぞれちがって、見ているだけでもおもしろいと思えた。内容を知らない人でも、一つのストーリーができるのではないかと思った。
- たくさんの出来事を1枚の絵にすることで一連の流れを頭の中で映像として思い浮かべられて面白かった。
- 炎の光で平家物語の屏風を見ると、古の音が聞こえるようだった。風の音が耳を通り、心へと語りかけてくるように感じた。人々が文化遺産を守りついでいく術なども知り、もっと日本の古の文化財を知ることが大切だと思った。

◆平家物語について

- 自分の知っている物語がかかっているから〇〇がいる・あると発見があって楽しかったです。
- 平家物語に出てくる登場人物がよんでいた時のように出てきていて、読んでいた情景とはまた違う説明をきいて、変化におどろきました。絵に書いたときに色んな情景などが思い浮かび、見ていてとても面白かったです。
- 平家物語を読んだときは、矢が落ちていたけど、絵では扇をうった瞬間がかかれています。文と絵の違いがおもしろかった。人がとても細かくかかれています。
- あつもりとか弁けいとか、そういった主要の人物だけでなく、名前が分からないような人の顔やよりのポーズまでとても丁寧に描かれていて、キレイだなあと思った。義経の顔だけ白くなっていることにおどろいた。また、これは義経が他とは違うことを示しているのだと知った。昔の人はこうやって偉い人物を敬っていたのかも知れない。
- 2年生の時、平家物語を読んで、自分の頭の中で想像していた景色が屏風として見ることで良くなった。その他にも屋敷？が燃えていたり、人々が建物の高いところから矢を放っていたり、たくさんの出来事が描かれていた。
- 扇の絵を見つけた時、平家物語の一部が描かれているのだと思いました。ですが、実際は右の屏風には約20個以上のストーリーが描かれていると知って驚きました。一つ一つ丁寧に描かれており、表情までも分かる程のこまかさでした。
- 与一の扇の的も、びょうぶでみると全然雰囲気がちがってみるなどと思った。
- 平家物語の一部の絵だけれど一つ一つがとても細かく書かれていて色々な場所で色々なことがおこっているのがとても面白かったです。見れば見るほどたくさんのことがわかってさらに見入ってしまう感じがしました。一つの屏風でも20話ほどの話があることに驚いたのもっと知りたいと思いました。
- 教科書で見ると、話、光景がギョッと詰まっていたりしてとても面白かった。物語にとても忠実で、義経軍にしっかり弁慶がいたり、船の先端で女の人が踊っているようなしぐさがあったりなど、細かな工夫を見つけるたびにすごいと思った。
- 私が知っているシーンだけでなく、そのシーン以外でくりひろげられている戦いもみれて面白かった。屏風の中の戦いのシーンの知識をさらに深めればもっと楽しめると思った。
- 1人1人表情が違って面白かった。色々な場面が書いてあるから、1つの絵にたくさんの楽しみ方があるし、人が多くてにぎやかだった。

◆もっと知りたいこと、疑問に思ったこと、興味を持ったことはありますか

- 平家物語と内容がとてもあっていて、写実的だと思います。
- 個人に名前が添えられている人とそうでない人がいるのは何故なのか。
- 物語を感じさせる絵とはいちがすぐて興味を持った。
- 絵を描くのに何日くらいかかるのか気になった。屏風に絵が描かれていない状態を見たいと思った。
- もっと屏風の特徴やかかれていた物語を知りたい。
- 今日見たのはレプリカだったのでイギリスに行って本物を見たい!!!
- 源氏の戦略やその後などの細かいことをもっと知りたいと思った。義経の性格や話を聞いていたので、そのわりに、顔がしっそな顔だったので本当にあの顔なのか知りたいと思った。
- なぜ屏風に平家物語をかこうと思ったのか。実際には見えない景色をなぜこんなにも細やかに描くことができるのか。
- 他の屏風でも今日見た屏風のようにストーリーがあると聞いたので他の屏風も見たいと思った。
- なぜ何千年前の物をきれいな状態で保てたのか。どんなこと、物が屏風の絵に描かれることが多かったか。
- このような戦いを題材とした絵は他にどのような所に使われているのか知りたくなった。
- 平家物語は昔の人々にとってどのようなものだったのか。

先生からのご意見・ご感想・参加者の反応など

(P27に掲載)

講師より

今回のプログラムでは、中学3年生の皆さんにご参加いただきました。2年時の国語の古文の授業で『平家物語』を習ったばかりということで、皆さん高い関心をもって臨んでいただきました。那須与一や敦盛など、聞き覚えや見覚えのある場面に出会った時は、「これ知ってる!」と思わず声をあげる生徒さんもいました。講師が平家物語の冒頭文「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり〜」の一節を声に出すと、暗記している生徒さんたちが一緒に暗唱してくれたことが印象深いです。鎌倉時代につくられた物語が、江戸時代に屏風に描かれ、それを現在の私たちが鑑賞していること。教室のなかで、平家物語をめぐる時空が一つにつながる感覚を味わってもらえたような気がします。(高橋)

実施プログラム

プログラム
3

機関名 **大田区立石川台中学校** (東京都大田区石川町2-23-1)

見て、感じて、楽しむ松林図屏風



日時	11月13日(金)(2時間目、4時間目)
参加対象・人数	中学校2年生 2クラス(当日参加:合計64名)
実施場所	特活室(1階)
講師	2時間目:小島有紀子、4時間目:高橋真作(文化財活用センター企画担当研究員)
輸送方法	日本通運(株)関東美術品支店 美術品専用車による輸送(搬入・搬出:学校対応、開梱・梱包:〈ぶんかつ〉職員)

お申し込みの目的・ねらい (図画工作:講師の先生より)

「入学以来、鑑賞は定期的を実施しています。1年夏休みは、美術館見学を行い、お気に入りの一枚をレポートしました。日本美術の鑑賞は1年生3学期に行います。2年生の2学期後半から、日本の伝統工芸、日本美術の特徴を味わう鑑賞を行います。実際に目の前で作品世界を味わうことで、深い学びに繋げることを狙いにしています。」

実施までの流れ

実施の約1ヶ月前に学校で事前打ち合わせを実施、実施場所の確認とともに、内容について意見交換した結果、プログラム②で申し込みをいただきましたが、先生のご希望に沿う内容はプログラム③であると判断し、プログラムの変更を行いませんでした。
担当の先生は、以前にも三井記念美術館で実施している複製を使用した訪問授業を経験されており、そのプログラムと同じ流れを希望されていたため、先生に授業案を作成いただき、その内容にそって実施することとなりました。打ち合わせ後に、打ち合わせ内容をメールでお送りし、2度ほどやり取りを行なって先生が確認した上、〈ぶんかつ〉で原稿を作成して当日を迎えました。複製品とキット一式は、前日搬入、授業翌日搬出で対応いただきました。

当日のプログラム内容

当日はワークシートを使用し、1. 照明が変わることによる見え方の違い、2. 第一印象、3. 近づいたり、場所を変えて見たり、ほかの人の意見を聞いて変化した見え方の違い、の順番で作品の鑑賞を進める構成としました。(※参加者の密を回避するため、プログラム時間内は班ごとに分けて鑑賞の時間を設けました。)

事前・事後学習など

屏風について事前学習を予定しているとのことだったのですが、事前打ち合わせの際に、参加者が作品名と作者について知らない状態で参加できるように、事前学習の内容の調整をお願いしました。

参加者のワークシート内容紹介(一部抜粋※全て原文のママ)

◆わかったこと、面白かったこと、もっと知りたいこと

- 初めて屏風を見て広さに驚きました。大まかな絵だと思っていたのですが筆跡や風景が細かく描いていて奥が深いなあと思いました。畳から屏風を広げる時の音重々しく感じました。
- 一言に屏風といっても、とても色々あるのを知れてよかったです。また、一色であそこまで色々表現できるのがとてもすごいと思います。面白かったのは一人の考えがぜんぜんちがって発表することによって、どんどんイメージが広がっていくのが新体験でとても面白かったです。
- 屏風は見る人によって見えるものが変わり、その人と話し合うことによって、自分にも見えなかったことが、見えたりすることがあるということが分かった。また、描いた人の思いをもっと知りたいと思った。
- 余白になっていても何かがあるように見えることが私は考えたことがなかったのでおもしろいと思いました。そして、光の色によってとても印象が変わることが分かったので他の作品でも光を変えて見てみたいと思いました。人によって感じ取り方が違っていたのもおもしろかったです。
- この水墨画を見て分かったことは、四季折々の表情を見せてくれる奥深い絵画ということです。そして、人による価値観の違いからいい考えをみつけだせるということもわかりました。
- 一色で木があること、きりがあることがわかるように描くのはすごいなと思いました。木の枝の表面も細かく描かれていて本当に繊細だと感じました。また、この屏風の描き始めはどうなるのかなと知りたくまりました。
- 水墨画や炭の濃淡や背景を使いそのふんいきをあらゆる照明の色などによって印象が変わったと思いました。
- 黒の濃淡がはっきりしていて、季節の現れや、色々な景色が表れていて表現豊かだった。とても濃い部分や薄い部分があり、すばらしかった。余白を利用して何かを表していたり、うすきりを表しているなどのことから、冬を表していたり、朝を表していたので、すばらしかったと思う。また、明かりの種類が変わることで、雰囲気が変わり、イメージも変わっていたので、よかったと思う。
- 自分はこの授業を通して文化財である屏風のおもしろさが分かりました。霧の表現方法や濃淡による遠近の表現がとても美しいと思った。
- 私は背景の色が茶色っぽかったので暖かみを感じ、この絵の季節は春なのかと予想しました。しかしこの色は劣化してできた色だと知りました。私を感じた季節と作者がイメージした季節は違うのかとそれを知って思いましたが、講師の方が「今わかっていない」「色々な見方がある」とおっしゃっていました。確かにその通りだと思いました。作品は作者だけがその絵に込めた思いを知っています。それを読み取ろうとしたり、自分の思いを重ねて見ることができるのが美術の良さだと思いました。表現技法や色味などは作者のこめた気持ちを知ることにつながるヒントになります。そのヒントの見つけ方を今日の授業で学ぶことができました。とても面白かったです。
- 墨の濃さによって遠近や、きり、季節や時間帯などを想像できるところが、びょうぶのすごいところだと思いました。また、何も書いていないところをきりの様に見せているのがとても面白いと思いました。今まで知らなかったびょうぶの世界に興味があったので、もっとびょうぶについて知りたいと思いました。
- 一つの絵で季節や時間、明るさ、見る場所でもとも変わることが分かった。そして幹の部分が書かれていないだけできりができているなど理由がとても良かった。
- 屏風は昔は部屋をくぎる物として使われていたのは知っていたが、光の色が変わるだけで印象が変わるのは知らなかったのでも面白かったと思いました。また金色の屏風が光の色が変わるとどうなるのかも知りたいです。
- 見る角度や距離によって作品の見え方がちがうところがおもしろかった。作品の雰囲気や風景などから時間や場所、季節を想像したり、他の人との感じ方の違いなどもおもしろかった。これから、いろいろな作品を見るときには見るだけでなく作品の意味やその作品に込められた思いなども考えて見ていきたいと思う。
- 近づいて見ると、濃淡が激しいのに、遠くで見ると落ち着いた感じに見えるのがおもしろいと思いました。一つの絵でも見方によって感じ方が違うということが分かりました。また、日本の作品は落ち着いた静かな印象の物が多いと思いました。今は違って道具として使っていたというのわかりました。
- 今回、この屏風を見て、固定概念にとらわれて美しく描くよりも、とらわれず、見た風景と、自分の想像した風景を描くことで、屏風が美しくなると分かった。もし、この松が決まった並びで描かれていたら、心の中の景色だったとしても美しくなかったと思う。何故あのように書けたのかもっと知りたい。
- 墨だけで木をえがきそのうえきりまでえがいているところに感動しました。そして照明でふんいきや、さむさやあたたかさがつくつたわってきてもふしぎな気持ちになりました。
- 屏風は今まで見たことがなかったので、開くところを見られたのは貴重だったなと思いました。また、ろうそくの明かりをつけると時代劇みたいな雰囲気が出て良かったです。墨だけであんなに遠近感が出るのは凄いなと思いました。次は、豪華な屏風も見てみたいです。
- まず、1つの屏風で様々な見方、感じ方があった。友達が山のことや松の木ではということと言わなければ気付かなかった。もらった小さい屏風を見て、もっと細かいところの工夫を知りたいと思う。ほかに近づいた時に見た、筆の使い方(少し大きざっぱだった)も面白いなと思った。遠くから見たときに丁寧に描かれているなと思ったから少し大きざっぱでビックリした。

先生からのご意見・ご感想、参加者の反応など

2・3学期に行う日本美術鑑賞は西洋の美術と対比させて行っていますが、日本の伝統的な絵画については中学生はそのよさ美しさを身近に感じる機会がないので、今回の鑑賞は効果的でとても興味を持っていました。部屋にある屏風を見ただけで、多くの生徒は感動していました。

講師より

今回は中学2年生の皆さんに、松林図屏風をじっくりと鑑賞していただきました。「ここには何が描かれているでしょうか?」という問いに対しては、まずは「松」と「山」という答えが返ってきましたが、ある生徒さんの「霧」という答えをきっかけに、「地面」や「空」や「風」など色々な答えが出てきました。他の人の意見を聞くことで、イメージネーションがどんどん広がっていく様子がわかりました。「描かれているのはどの季節でしょう?」という問いに対しては、4つの季節それぞれで手が挙がり、人によってこんなにも見え方が違うのかと驚いていた様子でした。季節を選んだ理由を尋ねた際は、自分とは違う選択をした人の意見に熱心に耳を傾けていました。色々な見方があるってよいこと、また人の意見を聞いたりすることで、それまでの自分の見方も変化することを感じ取っていただけたかと思います。(高橋)

実施プログラム

プログラム
5

機関名 世田谷区立奥沢中学校 (東京都世田谷区奥沢1-42-1)

絵で読む平家物語



日時	11月24日(火) (3時間目～6時間目)
参加対象・人数	中学校2年生2クラス、3年生2クラス(当日参加:合計80名)
実施場所	格技室(校舎1階)
講師	3・5時間目:小島有紀子、4・6時間目:高橋真作(文化財活用センター企画担当研究員)
輸送方法	日本通運(株)関東美術品支店 美術品専用車による輸送(搬入・搬出:学校対応、開梱・梱包:〈ぶんかつ〉職員)

お申し込みの目的・ねらい 美術:講師の先生より

「今年のコロナにより、美術館等へ行きづらくなってしまったから」

実施までの流れ

メールと電話で事前打合せを行っていましたが、詳細な内容のやりとりが難しかったこともあり、急遽、実施1週間ほど前に学校へ伺いました。先生と最終の打ち合わせを行ない、本プログラムの基本的な内容のすり合わせを行ないました。副校長先生と担当の先生の希望により、先生が作成した指導案をもとにワークシートを使用した授業を行なうことになりました。ワークシートをもとに、こちらで組み立てた授業内容を改めてメールで確認いただき、当日の実施となりました。事務的なやり取りを含め、5回程度連絡調整を実施しました。複製品とキット一式は、前日搬入、授業翌日返却で対応いただきました。

当日のプログラム内容

プログラムの基本的な流れに、先生が作成したワークシートの設問を落とし込む形で進行了しました。まずは屏風を目の前でひろげ、屏風照明2種と自然光での見え方の違いを体験してもらいます。そのあと、全体の印象を離れたところから眺め、グループごとに屏風に近づきじっくり見て、構成や描き方から日本美術の特徴を学びました。ワークシートの設問は1. 鑑賞しながら自分が気になる箇所を挙げてその理由を書いてみよう、2. 屏風を間近に見てどう感じたか、3. 屏風の全体を見てどう感じましたか。当時の日本の文化や美術を想像しながら書いてみよう、4. 今も残る平家物語が当時の人からするとこの屏風を見てどうどのように感じたでしょうか。想像してあなたが思うことを書きなさい、5. 現在にも伝わる平家物語は制作された当時にはどのような思いで描かれたと想像しますか。制作当時の時代背景なども想像して書いてみてみよう、の5つです。流れは前後しましたが、設問への回答は授業内でほぼ対応することが出来ました。

事前・事後学習など

国語の授業で平家物語を学び、今回、美術の授業に臨んでももらいました。ただし、鑑賞する作品の作品名などは事前に、一切伝えないようお願いをしました。

◆屏風を間近に見てあなたはどう感じましたか

- 教科書で画像を見るより迫力があつたし、とてもきれいだった。自然光だとLEDよりも雰囲気良かった。荒々しい戦の光景がイメージできたけど、金色の雲や陸の神々しさが戦の声とか悲鳴をかき消している感じがする。
- 戦の叫び声や馬の鳴き声が聞こえてきそう。崖から馬に乗った兵がかけおけている。雲と陸が同じ色。一人一人髪長さや目、ひげの長さ、肌の色が違って、たくさんの人を表現できるのはすごいと思った。
- 光の効果によって見え方が違うのがすごかった。自然光を通して、昔の人が普段どのように屏風を見ているかかんじることができた。
- この屏風をバツと見てこの戦争の激しさと、人、一人ひとりの戦争で打ち勝つための必死さを感じた。
- この屏風をおくなら、寝所ではなく、えらい人たちが集まって話し合うような場所かなと思った。絵の中に矢を打った人とはなれた矢とせんす?があった。そこに、ストーリーが見えるのがおもしろい。当時の人はこの屏風をどう感じていたのか。どんな気持ちで見ていたのか気になる。
- 右から左に流れが(時代)あると言っていたけれど、右から左に風が吹いていて、目線が右から左に流れるように感じた。地面と雲の色が同じで世界が広い感じがした。細かいよりのや、様々な装飾がすべて筆で描かれていて人間にこんなものが描けるのかと感動した。昔の人たちは格好で身分の差を表現していたから、上裸の人もいれば、強そうな華やかなよりの人もいて、古いなと思った。目線が流れるように作られていて、時代も場所も右から左に自然に自分で見ていた。
- 海には綺麗な様子で暗い様子どちらも感じられる。いまにも戦いがおきるという緊迫感が伝わってくる。大胆ではっきりとしている構図で分かりやすく、雲などの空気感でも遠近感がでているように感じる。あまりごちゃごちゃしている様子がない分、武士たちのごちゃごちゃとした感じがよく伝わってくるように感じた。
- 右から、本のように物語が進んでいて、それぞれに有名な話のついでだったので、絵本を読んでいるような気分になりました。そして、雲より上からの目線で絵が描かれていたけれど、土の境や見え方が、本当に雲の上からものを見たことがないような感じで、とても見えて美しく、絵にピッタリだと思いました。
- 自然光が良かった。現代にはあまりない色だなと思った。最初見たとき雲の上のように感じた。

◆現在にも伝わる平家物語は制作された当時にはどのような思いで描かれたと想像しますか

- その当時の戦争の様子を描いて残すためだと思う。今までもこういった戦争の様子を屏風に描いてそれに便乗しているのか、新しく、屏風に描いてみるのを挑戦しているのか。←こういう可能性があるのかなって思う。これをかいた人がどういう人かわかんないけど、将来戦争をするなよっていう気持ちをこめてるのかなって思った。
- この時代の物語を後世にも語り継いでいきたいという人々の思いから描かれたのだと思います。(鎌倉時代の時に作られた物語が江戸時代で屏風で作られたからです。)
- 鎌倉時代に書かれた平家物語を江戸時代に屏風にしたのは時代が違うことで表現できるようになったからだと思う。江戸時代になると屏風は金ばくをはって装飾品というものになっていったから華やかに描かれているのだと思った。
- 当時の平家の時代やそのあけない終わりに対するあわれみやからかう気持ち、また亡くなった人々の大事な命を後世につないでいこうとする気持ち。この絵からは当時の戦の迫力と緊迫感を強調されてかかれている。江戸時代には偉い人の注文に対して絵を描く仕事の人がいいた。頼んだ人は平家の悲運な末路の情緒だっただけ感動を気に入ったためかかせたのではないと思う。なので2隻にすごく色々なものがつめこまれているような気がする。
- 1100年頃の日本について描かれた平家物語を絵として具現化しているこの屏風は、鎌倉につくられた平家物語を江戸時代に描いていったものです。もともと文章として成立していたものをわざわざ絵におこした理由としては、後世へ受けつぐというスタンスの基描かれたのだとも思います。その上で、その時、その場所にいたわけではなく、今のようにカメラなどで写生をすることができたわけではなかったと思います。そのことから、一人一人の想像上の動きなどを繊細に再現することで、その時の情景をうまく表していることが分かります。

◆全体の感想

- きんぴかがめっちゃきれいだった。昔の人はあんなにきらきらしたものを日常で使っていたのかと思うとうらやましいです。屏風が思ったより大きくて、右から物語を見たときワクワクしました!
- 1つの屏風にいくつものストーリー、場面がちりばめられているのは本当にすごいと思う。1つの戦にこんなに話があるとは、そして、屏風によって現代の私たちに伝承されているのは驚いたし、貴重な体験をさせてもらった。また、明かりによって色の見え方が違ったりしていてもおもしろいと思った。今は戦のない平和な世の中だが、この屏風を見て、戦の虚しさや、今の幸せを感じ、この先も屏風によって未来の人に伝承させていってもらいたいと強く思う。
- この授業を受ける前は文化財についても、屏風についても全然知らなかったけれど、実際に聞いて、見ることで屏風についての知識や理解が深まったし、興味を持つことができました。絵を見て色々発見していくのも楽しかったし、見つけたときのおもしろさは本当にすごかったです。これからも文化財にふれる機会があったら、もっともっと知っていきなという風に思いました。とても楽しかったです!
- 昔の人たちの生活について触れてみて、今の時代にも適応できるような物もたくさんあつたし、現在の世界はすべてのものが便利にならずにすぎているから、逆に昔の人の部屋とか生活とかに少しあこがれたりしました。また、部屋の明かりが外の太陽の自然光ってなんかとてもいいなと思いました。
- 「文化財」や「屏風」は古くて面白くないものと思っていたけれど、今回実物を見て屏風全体のストーリー以外にも場面場面のストーリーや細かい絵にすごく興味を引かれた。扱うときの丁寧さに驚いた。ネクタイや上着まで気を使って文化財とはすごいものだなと思った。本物はイギリスの博物館にあると言っていたけれど、日本の文化財の海外での評判はどうなのだろうと疑問に思った。私は美術館より博物館のほうが好きで、恐竜等をよく見ていたけれど、日本の美術品も少し見てみようかと思った。

先生からのご意見・ご感想・参加者の反応など

現在は美術品としてのものが、当時の人が使用していたときのことを少し深堀してあげると、屏風の意味が変わってくると思いました。

講師より

今回は、中学2年生と3年生の皆さんにご参加いただきました。格技室での実施であったため、畳が敷かれた広い空間で屏風鑑賞ができました。暗幕を開けたり閉めたりして、灯具による照明の暖色系と白色系の灯り、また蛍光灯と自然光など、光の当たり方によって屏風の印象が大きく変化することを感じていただけたかと思います。グループごとに屏風に近づいて見学した際には、こまかい図様が散りばめられていることに驚いている様子でした。弁慶が描かれている箇所を教えると、「近くに義経がいるはず!」と言って探し始める生徒さんもいて、丹念に画面を鑑賞してもらいました。授業で『平家物語』を扱ったばかりだったとのことで、教科書で習った古典文学の世界が屏風のなかでビジュアル化されていることに気づき、歴史に入り込んだような感覚を味わっていただけたように思います。(高橋)

実施プログラム

プログラム
1

機関名 青梅市立若草小学校 (東京都青梅市新町1-15-1)

自分だけの松林図屏風をつくってみよう!



日時	12月4日(金)3時間目～6時間目
参加対象・人数	小学校4年生 2クラス(当日参加:合計70名)
実施場所	図工室(校舎2階)
講師	小島有紀子(文化財活用センター企画担当研究員) サポート:高橋真作(文化財活用センター企画担当研究員)
輸送方法	日本通運(株)関東美術品支店 美術品専用車による輸送(搬入・搬出:学校対応、開梱・梱包:〈ぶんかつ〉職員)

お申し込みの目的・ねらい (図画工作:専任の先生より)

「学校目標である「アーティスト2020」に合わせて、外部講師を招いて日常では体験できない学習をさせたり、図工・美術の作品を手にとれる場所に日常的に展示したりするなどして、子供たちの情操を豊かにしていきたい」

実施までの流れ

実施2か月ほど前に学校へ伺い、基本的な流れや実施ガイドをもとに打ち合わせを行ない、プログラム①を90分間(2時間授業)に拡大して実施することで合意しました。やりとりはFAXで行い、事前打合せの内容を反映した授業の流れを送信し、担当の先生と副校長に確認いただいたうえで授業当日をむかえました。FAXでのやり取りは事務的なものを含めて3回程度行ないました。なお、事前打ち合わせは、先生が行われている鑑賞の授業についての情報もいただくなど、3時間程度の実施となりました。

当日のプログラム内容

初めてプログラム①を90分間で実施しました。まずは実際に目の前で屏風をひろげながら、文化財とはどんなものか、またその取り扱いについて簡単にお話ししました。前半45分は墨の表現をじっくり鑑賞し、後半45分で屏風型のワークシートと松のスタンプを使って、自分だけの松林図屏風を作り、工夫したところや頑張ったところを見てみるという構成です。鑑賞の際には、屏風の調度品としての特色も学び、日本美術への理解を深めました。後半の制作の時間では、前半の鑑賞で感じた風景を表現するために、スタンプの配置や、スタンプにつけるインクの濃さを調整して、児童のみなさんは思い思いのミニ松林図屏風を作っていました。なお、当日の図画工作の授業の前の時限では、各クラスとも習字の授業だったためか(墨汁を使用)、墨の表現にも強い興味を持っていました。

事前・事後学習など

日本美術で鑑賞の授業を行なったことがないとのこと、また4年生なので歴史なども学んでいないことから、あえて事前に基礎的な情報などを学習していない状態での実施をお願いしました。

参加者のアンケート回答紹介(一部抜粋※全て原文のまま)

◆屏風について

- 和紙でできている。いろづかいがすごい。
- すみでかかっていることが、すごいと思いました。
- とおくで見ると、松の葉と同じような葉に見えただけ近くで見ると、なんか、あらかいたような感じがしました。
- 屏風の役目などが知れておもしろかったです。屏風は太陽光はあびれないことや、光の強さで屏風の見方がかわるなどがわかった。
- うすい松は遠くの方であって、こい松はてまえの方にあると思った。
- 一人一人ちがう見方があった。
- 昔の人は、あんなにむずかしい絵を手描きしていたと分かったとき、すごーい!!と思いました。
- よく見ると色々な風景が絵がかかれていてきれいだった。明かりをけている時と、つけていない時をくらべてみると、見方によってちがって見えることがおもしろいと思った。
- 絵が見るだけではなく、考えることも大事だと分かりました。色んなことが想像できておもしろかったです。昔の人の気持ちやどんな音がするかなど、気分などによって変わるということがびっくりしました。
- こい色やうすい色があって同じものなのにぼくじゅうではなく、すっいて、する力がちがくて色の差をかえられるということはすごいなと思いました。びょうぶはかくれたりうしろをかくしたりいろんな意味があっておもしろいなと思いました。
- とおくで見たらうすい色とこい色で、いろんなふうけいに見えるけど、ちかくで見たらこい色とうすい色がまじわって、いいふんいきになって、とおくから見てもちかくで見ても、すごくいい絵だと思いました。それとかくどによって見え方が少しだけ変わるのがおもしろいと思いました。
- 松林図屏風を見て、とおくからみている感じ絵だったり近くからみている感じがあって楽しかったです。

◆制作について

- 力の入れのかけんをちょっと変えるだけで、他の人とは全くちがう感じになって、くみあわせがいっぱいありそうだなあと思いました!
- 書くのと、見るのそれぞれの楽しさがあるんだなと思いました。
- 同じ色でもうすくなったりこくなったりすることがわかりました。
- あの、屏風はえのぐでかいていると思いました。ぼくじゅうがあると思って自分で作ったと思いませんでした。自分で作ってほんとにたのしかったです!!はんこがりたいですごかった!
- おもしろかったことは、自分でかくのではなくスタンプでできておもしろいとおもいます。分かったことは、ほんとうにかいてみたらこの作品を描いた人はすごいとおもいました。
- 松林図屏風ですみのすり方で色を分けていておもしろかったしスタンプでも色のこさやうすさなどが表現できることが分かりました。
- あんな大きいのに手がきでかくのはすごいと思ったし自分の作品ができるのがたのしかったしおもしろかった。
- すたんぶをおしてそれをかさねたり、すたんぶをぬらないでちょっとすれってやったらきりみたいになるしいんしでことしたりいろいろな工夫ができます。

◆こんなことがもっと知りたい

- 初めて博物館の作品を見れたのでよかったです。色々な物がある博物館はどういうことをするのかもわかりました。そして自分で作る作品は、とても楽しく感じました。博物館には行ったことがないのでとてもぎょうな時間がもらえたと思います。わたしは、博物館に行ってみたいと思いました。
- なぜ松などを少ない数しかかかないのだろう。
- もっと色々な屏風を知りたい!
- もっと松林図屏風を見たいです。
- 屏風のかちやつくった人の名前などをしりたい。
- くらいところとうすいところのちょうせつがとてもすごくてこんどちょうせつをしてほんとうなのかしらべてみる。
- さいしょは、いっぱいものとかかかいてあるのかと思ったけど、シンプルで木がかかいてあってそれもいいなと思いました。おもったことは、はくぶつかんにもいっているいろいろなものをみてみたいです。かいてみたらむずかしくてかいた「はせがわとうはくさん」がすごいなと思いました。はんこの中の文とかも今の文とはちがっていいなと思いました。
- 昔の人がどんな気持ちで書いたのか、どんな物からつくっているのか、どのざいつで絵をかかれたのかなどこまかいところまで知りたくなりました。
- もっと知りたいことは、どうしてさくしゃさんは白黒にして絵をかいたのか、知りたいです!
- びょうぶも知りたいけれど、他の昔のかぐやどうぐでは何があるのかもっとしりたいしびょうぶの使い方は他に何かあるかしりたいです。
- 松林図屏風以外にも昔にはいろいろな屏風があったのかや今の時代にも作っているのかなと思いました。

講師より

プログラム①を初めて90分間で実施しました。前半45分が鑑賞と解説、後半45分で制作とまとめを行ないましたが、前半の鑑賞でも集中力が途切れることなく「見る人のきもちによって見え方がちがっていてもいい」と理解し、その時に松林図屏風から感じた季節、時間、風景などを制作で表現してくれたと思います。鑑賞では、小学校4年生であることも影響していると思いますが、素直に言葉が飛び出し、いろいろな人の意見を聞こう、という姿勢を強く感じました。制作では、みなさん時間ギリギリまで使って制作してくれました。この体験が「見ることは楽しいこと」につながり、自分の回りの文化財に興味を持ち、守り、伝えていく一歩になることを願っています。(小島)

その他

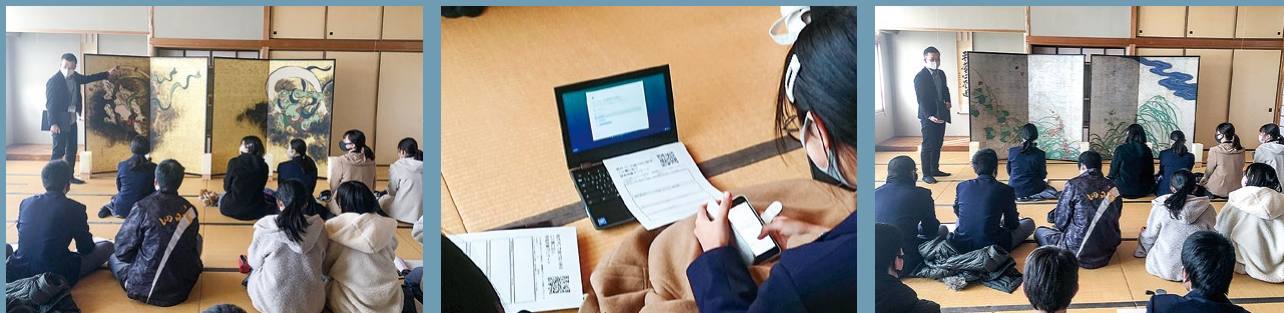
西多摩新聞 2021年1月8日で紹介
読売新聞 多摩版 12月5日で紹介

実施プログラム

プログラム
4

機関名 三重県立四日市高等学校 (三重県四日市市富田4-1-43)

見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風



日時	12月18日(金)2・3・4時間目
参加対象・人数	高校生1年生 美術選択者3講座(当日参加:合計84名)
実施場所	和室(校舎3階)
講師	2・4時間目:小島有紀子、3時間目:高橋真作(文化財活用センター企画担当研究員) サポート:間淵創(文化財活用センター保存担当研究員)
輸送方法	日本通運(株)関東美術品支店 美術品専用車による輸送(搬入・搬出:学校対応、開梱・梱包:〈ぶんかつ〉職員)

お申し込みの目的・ねらい

「日本画を鑑賞し、日本美術の特徴を理解することで、今後の授業で実施予定の貝合わせの制作につなげたい」

実施までの流れ

三重県立四日市高等学校では過去にも京都国立博物館所蔵の高精細複製屏風を活用した授業を、また、昨年度は本プログラムを行なっています。
遠方であったため、メールと電話で事前打合せを行ない、前日夕方に学校へ伺い直接打ち合わせを実施しました。先生の希望により、先生が作成した指導案をもとに授業を行い、鑑賞部分のみぶんかつから派遣された講師が担当することになりました。複製品とキット一式は、前日搬入、2週間後のご返却で対応いただきました。

当日のプログラム内容

貝合わせの制作につなげたいとのことで、風神雷神図と夏秋草図の関係性を中心とした構成としました。生徒が現代の酒井抱一になり、風神雷神図の裏に描くとしたらどのようなものを描きたいか、そのイメージを貝合わせの制作につなげる内容です。風神雷神図と夏秋草図の2つの鑑賞が必要なため、時間的な制約があることから屏風をひろげた状態で授業をスタートしました。当初、学校のご要望によりワークシートではなくICTを活用(PC使用)する予定で、前日の事前打合せ時にぶんかつ講師と設問項目を検討したうえで先生がフォームを作成しましたが、当日の実施場所であった和室の電波状況ならびに機器の状況が不安定であったため、ICT活用は叶いませんでした。表裏の屏風を鑑賞したうえで、貝合わせの制作につなげるための素材(作品の気になる部分など)を写真を撮るなどして記録し、紙に手描きで下絵を描くところまでが講師派遣時の授業内容でした。

事前・事後学習など

鑑賞の際に記録した素材となる場所の写真と下絵を生かして、貝合わせの制作に繋げてくださったとのことですが、残念なことに授業時間が足りず、はまぐりの下絵で終わってしまった生徒さんもいたとのことでした。

参加者の鑑賞授業プリント内容紹介(担当の先生が作成されたプリントより抜粋※全て原文のまま)

◆気になった所、下絵を描くうえで参考になる場所などはありましたか

- 風が感じられるような滑らかさ、いろんなものたなびき方、金箔がカッコいい、うっすらとした黒い雲の上に立っている感じ
- 風神雷神、白っぽい肌の色をしているのと、黄緑色の肌をしていて、両方とも帯のような物を身にまとっている。手足はうねうね模様が描かれている。髪はさらさらな質感の筆遣いで、雲はティッシュで質感を出してる風な感じの質感になっている。
- 線の太さ、細さで力強さ弱さを表している
- 筋肉の書き方が今までに見たことないくらい独特な描き方だと思いました。さらに風神と雷神で筋肉の描き方が違うのはなぜかなと思いました。
- 境界を白抜き(金?)して立体感と存在感を出している・迷いの無い筆で一筆に描いている 力の強さ・奥行きを太さと濃さで表現している・滲みを上手く活用している
- 金箔がひび割れた様子が、本当に雷が落ちてくる感じがして、印象的でした。
- 髪の毛の一本一本繊細な描き方や、色の重ね方、削ったの上から塗ったのかわからないけど薄っすら光る金などに引き込まれました。
- 私が気になったのは金色の腫と歯です。神秘的だなと思いました。また筋肉のついた足も力強くいいなと思いました。
- 全体で見た時に2人が距離をとっているように見えたので全体の雰囲気かわかるように2枚まとめてとった。
- 風神雷神の顔が笑っているように見えたので気になりました。
- 屏風の表と裏の絵を比べて鑑賞すると視界が急に広がる感覚がしました。また、雲の形が風神雷神で違っているのも印象的でした。

◆気づいたこと、わかったこと、面白かったことはありますか

- 屏風も貝合わせのように唯一無二の組み合わせということを知った
- 表は天空で、想像の世界なのと対照的で裏は地上で私たちが生きてる中でも見れるような現実世界が描かれていて、裏の作者さんが表の風神雷神とのリンクのさせ方が面白いなと思いました。
- 裏の絵が予想外だったが、作者の意図を知ることができてとても良かったです。
- 美術の教科書の写真でしか見たことがなかったので、実際に見ると色がもっと綺麗で金箔も光の当たり方によって違うように光ってて、印刷物ではなく実際に見るのはとても大切だと感じました。
- お話を聞いてから絵を観たところ、雲の種類の違いや身体の筋肉・脂肪の付き方等細部にも細かい違いがあると気づいた・表の躍動感や力強さと裏の対比がとても面白かった 想像がつかない絵で、意表をつかれた
- 私は「風は透明に近い白、雷は黄色、それに近い緑」とイメージしていたのですが、それとは反対の色使いなのが印象的でした。とても力強いスケッチや表情で、両端ですごく存在感があります。雲が灰色とかではなく黒なもの、悪天候を持ってくるような感じがして、いいなと思います
- 表の絵と裏の絵で、力強さと静けさを対比していた。裏の絵で、どこにでもあるような風景で風神と雷神を表現しているのが面白かった。風神と雷神の表現の仕方に違いがあるのに気づくと、見方が変わった。
- 対比だけでなく、共通の部分にも注目してみると面白かった。表は上空での風神雷神のやり取りがかかれていて、裏にはその下の地上の姿が描かれているのかなと思った。左と右だけでなく、裏と表にも関係があるのがすごいなと思った。
- 裏側には、綺麗な百合やおつぎが咲いているにもか関わらず、2人の因縁のせいで雑草がそれらを覆いつくし、両側の季節も合わずに、荒野にみえる。儂さを感じる。作品から意味を読み取るようで、面白かった。
- 鑑賞はもし自分がその絵の中にいたら?ということを考えて鑑賞すると良いとわかり、それによって自分自身を見つめアイデンティティを見出すことができるんだなと思った。
- 私たちは固定概念で風神、雷神と思い込んでしまったけど、何が描かれているのか自分で考えてみるのも面白いなと思いました。
- 風神と雷神だとすぐに思ったのは固定概念によるものだったから疑問に思ったことについてしっかりと考えることが大切だと分かった。
- 屏風の植物は本当にそこにあるようで、風や雨の様子がありありと想像できた。この屏風の相違点や共通点を知って、以前とは違う視点で観察ができるようになった。知れば知るほどこの屏風は面白いと思った。

◆もっと知りたいことはありますか


- この屏風の時代背景を知ってからもう一度見てみたい・自分の知らなかった日本画の技法についてもっと知りたい
- 表と裏の絵の構図がどうなっているのか比較して見てみたいと思いました。
- ほかの屏風にも様々な関係を表しているものはあるのか。
- 描いた人たちのストーリーや描かれた絵のストーリーをもっと知りたいと思った。
- 風神、雷神の配置はなぜ風神が左側で雷神が右側なのか


先生からのご意見・ご感想、参加者の反応など

生徒にできるだけ作品の情報を事前に伝えず、和室で見る驚きを優先しました。和室で見たことにより、昔の屏風の使い方もよくわかり、裏も見ることができる抱一の作品も発見が広がる授業でした。生徒は熱心に授業に参加しており、借りている期間に続けてみたことによって、日本美術を好きになる生徒が多いです。

講師より

今回は高校1年生の皆さんに、和室を使用して鑑賞いただきました。障子や床の間のある畳敷きの部屋に、屏風がよくマッチしていたと思います。貝合わせの制作につなげるため、風神雷神図の裏面に絵を描くとしたら自分ならどう描くのかを考えながらご覧いただきました。表面の風神雷神図から、屏風を裏返して夏秋草図の画面に入れ替えた際は、思ってもみなかった図柄に驚いている生徒さんや、「なるほど」と納得してうなずいている生徒さんなど、さまざまな反応が見られ興味深かったです。風神雷神図と夏秋草図における表と裏の関係性、両者の相違点と類似点をふまえたうえで、下絵用のペーパーに皆さん自由な作画を試みていました。今回のプログラムが、イメージを膨らませ、豊かな想像力を広げるよいきっかけになれば幸いです。(高橋)

 実施プログラム 4 見て、感じて、楽しむ風神雷神図／夏秋草図屏風	
機関名 足立区立六月中学校（東京都足立区六月1-30-1）	
日時 (貸出期間)	10月12日(月)～10月23日(金)
実施場所	美術室(校舎2階)
輸送方法	日本通運(株)関東美術品支店 美術品専用車による輸送、実施場所まで搬入 (開梱・梱包などは先生による対応)
参加対象・人数	中学校3年生 5クラス(合計200名)
お申し込みの目的・ねらい <input type="checkbox"/> 美術・専任の先生より	
<p>「日本美術史を学ぶ中学3年生の鑑賞の授業のため。」「スライドや写真ではわかりづらい運筆などの細部や、全体像や作風、置く場所によって見え方が違ってくるなどの、本物に近い作品でないと感じることができない体験型の鑑賞の授業を行ないたいため。」</p>	
実施内容	
<p>当センターから事前にお送りしたガイドを参考にして、先生が作成した授業案での実施となりました。回数を重ねるごとに、授業の進行がうまくいくようになったとのことでした。</p>	
先生のご意見、ご感想など	
<p>とても取り入れやすく、生徒も前のめりで参加する姿が見られましたが、当初は授業時間内で終わらず、5クラス目にはきちんと終了できるようになりました。</p>	

 実施プログラム 5 絵で読む平家物語	
機関名 京都府立福知山高等学校・福知山高等学校附属中学校（京都府福知山市字土師650）	
日時 (貸出期間)	10月20日(火)～10月30日(金)
実施場所	LL教室(校舎3階)
輸送方法	日本通運(株)関東美術品支店 美術品専用車による輸送、実施場所まで搬入 (開梱・梱包などは先生による対応)
参加対象・人数	中学1年生～3年生 各学年20名×2講座ずつ 高校1年生 27名×3講座
お申し込みの目的・ねらい <input type="checkbox"/> 美術・専任の先生より	
<p>「屏風の鑑賞を通して、日本美術に興味関心を持たせたい」「生徒とともに他教科の教員に文化財に触れ、感じながら学ぶよさを理解してもらい、美術鑑賞のよさ、教科としての美術の必要性を理解してもらう。年々、美術の授業・教員が減少している状況を打破するためには、生徒・他教科の教員に上記のことを実感してもらう必要があるため。」</p>	
実施内容	
<p>美術の授業のほかに、中1・歴史、中2・国語、中3・道徳、高1・国語、高2・日本史、高2・3の音楽美術書道合同で教科横断型の授業を実施したとのこと。平家物語や源平合戦等を学んでいるので、教科横断型にとてもしやすい作品だったとのこと。</p>	
先生のご意見、ご感想など	
<p>参加者の反応はとてもよく、鑑賞、文化財、平家物語や源平合戦、屏風、海外に渡った日本美術などに対する幅広い知的好奇心を持たせることが出来ました。昼休みの自由鑑賞時間に、授業で見せることが出来なかった高2・3(附属中からの内部進学生徒 ※中学生の時に高精細複製品を鑑賞している)がたくさん見に来ました。鑑賞する楽しさを味わった生徒は、自分から足を運び、鑑賞したいと思うようになることを実感しました。今回の鑑賞を通して、いままで鑑賞を経験したことのない生徒が興味関心を持てたのではないかと思います。</p>	
その他	
<p>両丹日日新聞 10月30日で紹介</p>	

プログラム
1

実施プログラム

自分だけの松林図屏風をつくってみよう！

機関名 新潟市歴史博物館（新潟県新潟市中央区柳島町2-10）

日時 (貸出期間)	12月18日(金)～2021年1月5日(火)
実施場所	本館1階「たいけんのひろば」(教育普及スペース) ※無料スペース
輸送方法	日本通運(株)関東美術品支店 美術品専用車による輸送、トラックヤード引き渡し
参加対象・人数	12月22日～27日の間、毎日1回の実施、各回定員20名(当日受付)、年齢制限なし
お申し込みの目的・ねらい	
「新潟の江戸中期の画家を紹介する企画展開催にあたり、無料スペースにて実施し、近世絵画に親しみ企画展への理解を深めてもらうため。」	
実施内容	
当センターから事前にお送りしたガイドを参考に、基本的な流れに沿って企画展のアレンジを加えて実施くださったとのことです。	
担当学芸員のご意見、ご感想など	
(P27に掲載)	
実施準備にかかった時間	

資料理解、運営検討に約120分、パネル、サイン、ワークシート作成約45分
他、スタッフ手配など



コラム

複製品とキットのみの貸し出しについて

ふんかつアウトリーチプログラムは初年度より【A】複製品を含むキットの貸出と講師派遣、【B】複製品を含むキットの貸出の2通りで実施してきました。【B】の講師派遣なしの場合、事前に①講師用の実施ガイド、②基本スクリプト、③キットリストをお送りし、授業案について電話もしくはメールで相談します(近場の場合など、ご希望があれば何うことも可能)。あわせて、ワークシートなどを作成、使用する場合は、講師派遣をする際に実施しているアンケート項目を入れていただくよう、依頼しています。

2019年度は2件、2020年度は3件の申し込みがあり、2年を経た現在、【B】について様々な課題が見え始めました。2019年度の実施機関のうち1件は、一度講師を派遣してプログラムを実施した上で2度目のお申し込みを頂戴した学校、もう1件はまったく初めての学校でした。初めての学校では授業時間内に終わらせることが難しかったとの意見があり、実施ガイドなどの改訂を行いました。逆に2度目の学校については、〈ふんかつ〉から送付したスクリプトを参考にしながらも独自の内容で実施されました。

2020年度は本報告書に記載の通りですが、これまでに見えてきた課題の一つ目が「正解を教える方針への対応」です。文化財の多くは人の手から手へ受け渡されてきた伝世品ですが、例えば作者がわからない、正確な制作年がわからない、海外に渡った文化財であれば、いつ海外に渡ったか、最初の所有者は誰だったのかなど、不明なことも数多くあります。学校教育の現場では正解を必要とする場合が多く、学校側が求める回答を提示できないような時には、「正解が無いものを見て、感じて、楽しむこと」に対する意識のすりあわせに時間を要するケースがありました。

課題の二つ目は「授業案の作成」です。小学校教諭の普通免許状の取得に際し、共通科目のほかに教科に関する科目のうち一以上の科目について修得が必要とあり、中学校教諭の普通免許状の取得では免許教科に応じて専修免許状又は一種免許状の授与を受ける場合にあってはそれぞれ一単位以上計二十単位を、二種免許状の授与を受ける場合にあってはそれぞれ一単位以上計十単位を修得することが定められていますが、そのうち2コマが鑑賞教育に充てられている程度で、大学によっては、表現をするための鑑賞に寄ってしまっているものもありました。このように鑑賞の授業について、教員免許を取得するための時間数が極端に少ないこともあり、授業案の作成に大変苦勞される先生もいたため、【B】講師派遣なしの場合でも、2021年度よりメールまたは電話による事前打合せを必須としています。

機関名 青森県総合学校教育センター

実施プログラム プログラム①自分だけの松林図屏風をつくってみよう！
 プログラム②屏風体験！松林図屏風をプロデュース
 プログラム③見て、感じて、楽しむ松林図屏風

日時 10月27日(火)13:00～16:30

参加対象・人数 青森県内の教員(小学校教員、中・高等学校の美術科担当教員)約20名程度

実施場所 青森県総合学校教育センター 産業教育研修室(3階)

講師 小島有紀子(文化財活用センター企画担当研究員)

輸送方法 日本通運株関東美術品支店 美術品専用車による輸送、使用場所まで搬入(開梱・梱包は〈ぶんかつ〉職員による対応)



お申し込みの目的・ねらい(教員研修)

「図画工作科、美術科における鑑賞の学習への理解を深め、鑑賞の授業の改善と充実につなげることを目指す研修講座を開催。小学校から高等学校までの教員が対象となる研修講座のため、プログラムの1から3を組み合わせた内容で実施を希望」

実施までの流れ

メール並びに電話による打ち合わせを行ないました。3時間かけてプログラムの実施を希望とのことで、3プログラムを組み合わせ研修内容を組み立てました。メール等で2回ほど内容についてやりとりを行い、当日を迎えました。

当日のプログラム内容

午前是指導主事の先生による「意味や価値をつくりだす鑑賞の学習」という内容の講義と演習が行なわれました。楽しく鑑賞ができる方法論や鑑賞で感じたことのアウトプットの方法などについて8例ほど実施されました。午後に〈ぶんかつ〉が担当する「思考力、判断力、表現力等を育てる美術鑑賞の学び」を行ないました。「ぶんかつアウトリーチプログラム」の概要を説明したあと、目の前で松林図屏風をひろげて、プログラム③から始めました。その後、個人ワークとしてプログラム①を、続いて3グループに分かれプログラム②を体験いただきました。専科の先生ばかりでなく、図画工作や美術を担当されている数学や体育の先生などもいらしたこともあり、多種多様なスタンプの松林図屏風や置き方が発表されました。

担当者のご意見、ご感想など (P27に掲載)

参加者の感想(一部抜粋)

- ・屏風の角度により見え方が変わることから、多面的な見方がとても大切なことがわかり、数学にも活かせる内容だと感じました。
- ・美術の制作が苦手と思っている生徒も「これなら自分にもできそう!」と積極的に取り組めそうだと思います。
- ・機能の観点から見るとということが、複製を用いて体験することで改めて良さを感じることができた。実物大ってすごい!
- ・実物とほぼ同じレプリカに触れ、間近で見ることができたので、とても楽しむことができた。どんな意見を言っても大丈夫だという安心感の中で参加できた。スタンプで描くのは、絵が苦手な子も楽しんでよいと思った。

機関名 荒川区立第三中学校

実施プログラム 特別授業「おもしろ探求!」

日時 7月31日(金)13:30～15:20

参加対象・人数 中学校1年生 156名程度

実施場所 荒川区立第三中学校 体育館

講師 小島有紀子(文化財活用センター企画担当研究員)

お申し込みの目的・ねらい(特別授業)

「自らの学びから研究へ深めていく楽しさ、学びから広がる世界について話してほしい」
 「文化財を保護していく重要性を知ってほしい」

実施までの流れ

メール並びに電話による打ち合わせを、事務手続きやワークシートの確認を含めて10回程度行いました。

当日のプログラム内容

1学年全員に対して授業を希望されたため、新型コロナウイルス感染症の状況によりPPTを使用した講義形式の授業としました。1. 博物館って何でしょう、2. 博物館に置いてあるもののお話、3. 博物館で働く人とその裏側、の構成で行い、内容は東京国立博物館教育普及室で行っているスクールプログラムをアレンジしました。

P14 実施報告「町田市立堺中学校」

先生からのご意見、ご感想、参加者の反応など

町田市立堺中学校 国語科教諭 相澤佐与先生

『平家物語』の学習をしてから約一年、義経、与一も生徒たちの記憶の彼方の存在となった頃、平家物語屏風で授業をしていただきました。特に照明の違いで変わる屏風の世界に生徒たちは驚き、「どんな音が聞こえる?」「どんな匂いがする?」という小島先生のガイドで徐々に『平家物語』の世界へと入っていきました。そして、義経や弁慶の名を見つけると生徒と屏風との距離がぐっと縮まり、一年前の学習も蘇ったようでした。「これが与一か。」「黒革威しの鎧を着た男はどこだ?」と、どんどん物語に引き込まれていく生徒たちの姿は印象的でした。近い距離で鑑賞できるのはたいへん魅力的だと思います。一年前は音読で原文のリズムを味わいました。今回は屏風のリズムで『平家物語』を楽しむことができました。屏風が作られた江戸時代の人達と同じようにこの物語を楽しみ、想像力が大いに刺激される豊かな時間となりました。



P25 複製品とキットのみの貸し出し実績「新潟市歴史博物館」

担当学芸員のご意見、ご感想など

新潟市歴史博物館 学芸員 中村里那さん

博物館の体験型プログラムとして、とても適した内容でした。話をして実際に体験し、手土産もあるのは理想的です。ほとんどが大人の参加者でしたが、照明での屏風鑑賞が印象深いという方が多かったです。スタンプの作業は大人も楽しめ、多様な工夫で真摯に取り組んでくださる方が多く安心しました。国宝・重要文化財の複製品の貸出だけでなく、体験キットまで提供してもらえるのは本当にありがたいです。今回はプログラム単独の広報が十分にできず、コロナの問題もあり参加者が少なかったですが、多くの方に喜ばれる企画だと思います。参加者に国宝・重文などの文化財を身近に感じ、本物を見たとき、より親しみを感じられるだろうと思います。



P26 教員研修、他 実施報告「青森県総合学校教育センター」

担当者のご意見、ご感想など

青森県総合学校教育センター 指導主事 伴貴代さん

青森県総合学校教育センターでは、図画工作、美術の鑑賞領域の授業改善につながる研修を、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員を対象に毎年行っています。令和元年度までは、県内の美術館を会場にして研修を行ってききましたが、美術館等と連携する他の方法を模索している中で、「ぶんかつアウトリーチプログラム」を知りました。問合せをし、このプログラムが教員研修でも利用可能だということや、研修の目的に合わせて柔軟に実施できることから、令和2年度の研修講座に組み入れることとしました。

研修講座では、全5時間のうち3時間を《松林図屏風》の高精細複製品を使用したプログラム内容にあてて実施しました。受講した先生方は、3つのプログラムを体験しながら、児童生徒が主体的に取り組むことができる活動のヒントや、講師からの専門的な視点を学び、どの校種の先生方にとっても満足度の高い研修となりました。先生方からは、「プログラムを実際に体験することで授業のアイデアがわき、たいへん満足している。」「美術館、博物館などになかなか行くことができない特別支援学校の子供たちにとっても本物を感じるよい機会になるのではないか」等の感想をいただきました。

「ぶんかつアウトリーチプログラム」の魅力は、事前の打合せが電話やメールででき、遠方の地域でも利用しやすいこと、講師派遣や貸出物の輸送が無料であること、各プログラムが工夫され楽しく学べることだと思います。何より、屏風が素晴らしく、複製品だからこそできる自然光での鑑賞は貴重な体験となりました。

今回の研修は、先生方にとって、新たな授業展開への気付きやアイデアにつながりました。尚、次の日の音楽の研修でも屏風を活用させていただきました。音楽の研修では、《松林図屏風》に合う曲を選び、その根拠をもとに話し合う活動を行い、こちらも有意義な研修になりました。2日間ありがとうございました。



実施方法	A	複製品を含むキット貸出と講師派遣(事前打ち合わせ必須) 講師は文化財活用センターもしくは、東京国立博物館の職員が担当いたします。
	B	複製品を含むキットの貸出(メールもしくは電話による打ち合わせ必須) 実施館の学芸員のみなさまや学校の先生にプログラムを行なっていただきます(講師派遣はありません)。予約完了後、ご利用者様のご都合に合わせて実施ガイドと複製品の取り扱いマニュアルをメール添付もしくは郵送でお送りし、貸出開始日に複製品とキットをお届けいたします。
料金	原則として講師派遣費用を含め無料 (ただし、キット一式に含まれない筆記用具、必要な画材についてはご利用者様でご用意いただきます)	
申し込み方法	事前申込制、年間10件程度(先着順)。毎年、2月中旬頃に翌年度の受付を開始します。受付開始以降、実施希望日の2か月前までにお申し込みください。 (すでに複製品の使用予定がある場合など、ご希望に添えず日程の調整をお願いすることやお断りする場合もございます。)	

お申し込みの流れ

1 申し込みフォームを送る

WEBサイトの「ぶんかつアウトリーチプログラム申し込みフォーム」に必要事項を入力の上、送信してください。受付は実施希望日の2か月前まで、フォームの受領順で受け付けます。

【ぶんかつWEBサイト】 <https://cpcp.nich.go.jp>
トップページ「教育プログラムを利用したい」→「ぶんかつアウトリーチプログラム」へアクセス

WEBフォームでのお申し込みができない場合は、WEBサイト「ぶんかつアウトリーチプログラムQ&A」のページにあるFAX用紙でお申し込みください。

2 実施可否のご案内

実施の可否について、文化財活用センターから1週間以内に電話でご連絡いたします。

3 予約証が届く(予約完了)

実施可能な場合は、「ぶんかつアウトリーチプログラム予約証」をメールまたはFAXにてお送りします。予約証を受け取った時点で予約が完了します。※予約完了後の日程変更はできません。

4 事前打ち合わせ

【A】講師派遣の場合は必須

実施予定日の2週間以上前までに、学習内容、当日の流れについて打ち合わせを行ないます。(講師が実施機関に伺います。訪問日程が調整できない場合や遠方の場合は、電話・メールなどでの打ち合わせとなります。)詳細な利用の目的などをお知らせください。

【B】複製品を含むキットの貸出

訪問・電話・メールなどで打ち合わせを行ないます。ご希望の方法を、お申し込み時にお知らせください。

5 使用キットが届く

複製品およびキット一式を送料元払い(または専用車両)にてお届けします。到着後は、必ず内容物一式の状態をご確認ください。

※【B】複製品を含むキットの貸出 をお申し込みの方は、複製品と一緒に送付する「複製品およびキット借用书」を、同封する返信用封筒にてご返送ください。

6 プログラムの実施

【A】講師派遣の場合

文化財活用センター・東京国立博物館の職員が現地に出張し、プログラムを実施します。

【B】複製品を含むキットの貸出

学校の先生や実施館の学芸員など、利用者ご自身にてプログラムを行ないます。

7 使用キットを返却する

ご利用後は発送時に使用した資材で梱包し、利用期間内に送料着払い(または当方手配の専用車両)でご返送ください。

※今後のプログラムに活かすために、利用者アンケートを用意しています。ご意見、ご感想をお聞かせください。

コラム

複製品とキットの輸送について

複製品とキットの輸送は、原則としてプログラム実施日前に送り、後日返却としています。受け取りと返却は実施機関で対応いただきます。そのため、機関によっては1時間目(朝)からの実施が可能です。使用する複製品はパネルが6枚つながった屏風ひとつで15~20kg程度、コンテナは5kg程度で、実施機関に到着後、実施場所までの運搬に屏風用の台車もお送りしています(コンテナ用の台車は実施機関での用意をお願いしています)。

キットの輸送は美術品の梱包・取り扱い・輸送のプロフェッショナルである日本通運(株)関東美術品支店に依頼しています。輸送を担当するスタッフは本物の文化財を取り扱う美術品作業員(梱包・輸送スタッフ)です。文化財の素材・大きさ・重量・状態などを確認し、研究員(学芸員)の点検作業の補助を行い、ひとつひとつの文化財に合わせた輸送用の箱や資材などを作って準備し、梱包を行い、振動や空調に細かく配慮した輸送手段で運びます。輸送先では開梱の上、点検作業の補助を行い、展示して固定します。このような作業を経て、お客様に見ていただく状態を作り上げています。人の手から手へ受け継がれてきた文化財を、100年先、1000年先の未来へ残してゆくための、文化財にかかわる人の手のひとつです。アウトリーチプログラムで使用する屏風は複製品ではありますが、そのようなプロフェッショナルの手で輸送しています。

FAQ よくある質問

Q. 複数のプログラムを申し込むことは可能ですか？

ご利用は1機関につき1プログラムまでとしています。ただし同一プログラムの複数回実施は可能です。講師派遣をご希望の場合、連続した日程であれば日をまたいでの実施も可能です。
(例:「午前2回、午後2回を連続した2日」「午前2～4時限目、翌日午前2～3時限目」など)

Q. 遠方の地域でも申し込みできますか？

複製品とキットが輸送できる場所であれば、全国どこでもお受けすることが可能です(原則として国内に限ります)。ご心配な場合は一度ご相談ください。

Q. 複製品とキットの貸出期間について教えてください。

複製品・キットの到着日(使用開始日)から最大で2週間(当センターへの返却にかかる輸送日数を含む)です。
(例:2019年9月17日に使用を開始した場合、9月30日までに当センター必着で返却)

Q. プログラム実施の様子を撮影してもよいですか？

静止画・動画ともに撮影OKです。ただし、参加者に事前に許可を取っていただくようお願いいたします。また、広報媒体などにお使いになる場合(WEBサイト、SNSなどによる発信)および取材を受けられる場合は、必ず事前にご相談ください。

Q. もし複製品が壊れてしまったら・・・？

利用者側で修理に出す必要はありません。到着時に壊れていた場合は当センターまで電話連絡の上、同封する「ぶんかつアウトリーチプログラム複製品・キット借用書」へご記入いただき、ご返送をお願いいたします(書類返送は【B】複製品を含むキットの貸出の場合のみ)。また、使用中や使用後などに破損した場合は、まずは当センターまでご連絡ください。※

※利用者の故意または重大な過失による破損であると当センターが認めた場合は、損害を弁償していただきます。

おわりに

2020年度は、緊急事態宣言が発令されていない限られた期間での実施でしたが、新しく開発したプログラムも反応がよく、また実施地域も広範囲に広がり、学校のほか博物館施設からの申し込みもありました。ただし、大人数で複製に近づき鑑賞することや集団での発話が難しい状況が続いたため、意見を共有しながら多様性を受け入れる鑑賞方法ではなく、まずは照明や自然光などの外的要因による見え方の変化を感じてもらった後、「どこを見てそう思ったか」「ではなぜそう思ったか」などの自己に問かける部分を膨らませて各プログラムを実施しました。意見を聞くこと、共有することが難しい分、参加者全員の表情やうごきを講師がしっかり見る必要がありましたが、現場での反応およびアンケート結果をみても、参加者は何かを感じて受け取り、考えることができたように思います。

この状況下における博物館・美術館の運営は様々な制限がある場合もあり、WEB上で楽しめるコンテンツの開発や、ワークショップなどの教育プログラムをコミュニケーションアプリで実施するなど、工夫を凝らして様々な機会の提供を行っています。このように各地でデジタル機器を使用した取り組みを推進している中、改めて本プログラムの特色が明確になったと考えています。学校における各種行事が軒並み中止になったこともあり、申し込みが爆発的に増えた一方、お断りや中止せざるを得なかった機関の中にはモニター越しでオンラインによる実施を希望される場合もありました。本プログラムの場合は、本物と寸分違わぬ複製品がガラスケースなしで目の前にあることが重要であり、それなしでは成立しません(文化財もモニター越しで見ると構わないのであれば、博物館の展示室からオンラインで本物を見る方法論が可能と考えています)。博物館の閉館措置や一斉休校などで、本物を見る機会、様々なことを感じる機会が限られる中、複製品を届けることができ初めてプログラムとして成立することを改めて実感し、そしてその意味を考え続けた1年となりました。本アウトリーチプログラムは文化財に親しみ、自らに問いかけ、考える力を養い、自分たちの地域や身の回りにある、人の手から手へ受け継がれてきた文化財を守り受け継いでいく力を育むための一手段です。2020年度にプログラムを受けた皆様にとって、この体験がその一歩になることを願っています。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、申し込んでくださった博物館、学校関係者の皆様、ご参加くださった皆様、そして遠隔地を含む輸送に細やかにご対応くださいました日本通運(株)関東美術品支店の皆様に心から感謝申し上げます。

小島有紀子
文化財活用センター企画担当研究員

2020年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書

発行日 令和3(2021)年7月31日
編集・発行 独立行政法人国立文化財機構 文化財活用センター、東京国立博物館
デザイン 平ノ内明子
印刷 大協印刷株式会社

※★の複製品を使用したプログラムでは、綴プロジェクト(主催:京都文化協会/共催:キヤノン株式会社)で制作された高精細複製品を使用しました。
※本プログラムはキヤノン株式会社と国立文化財機構による「文化財の高精細複製品の制作と活用に関する共同研究プロジェクト」の一環として実施しています。